

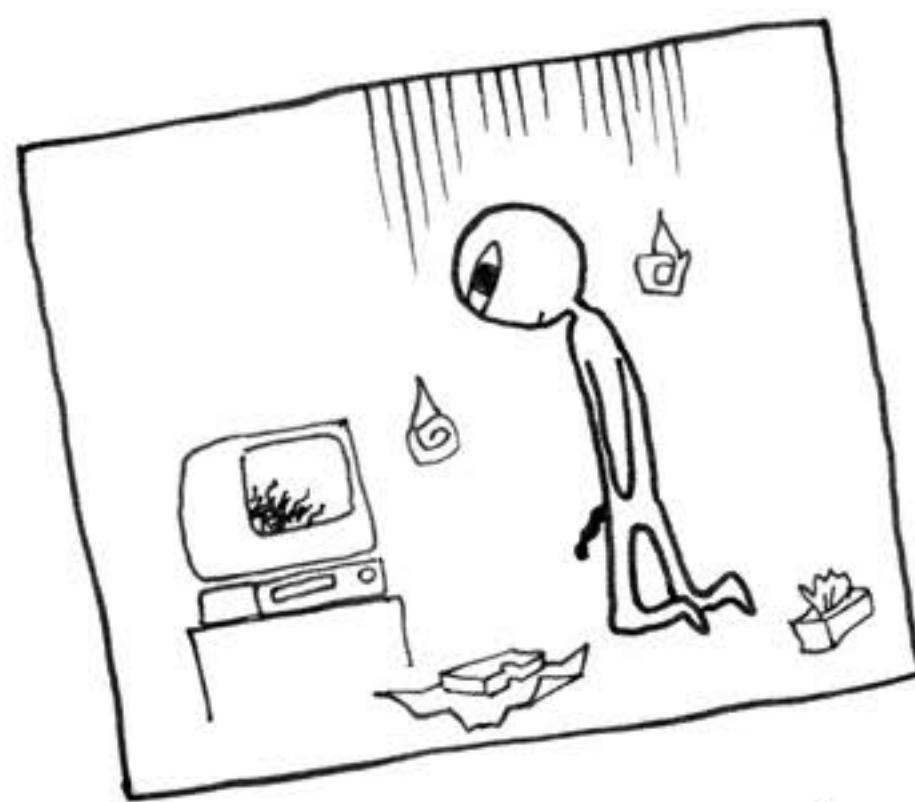
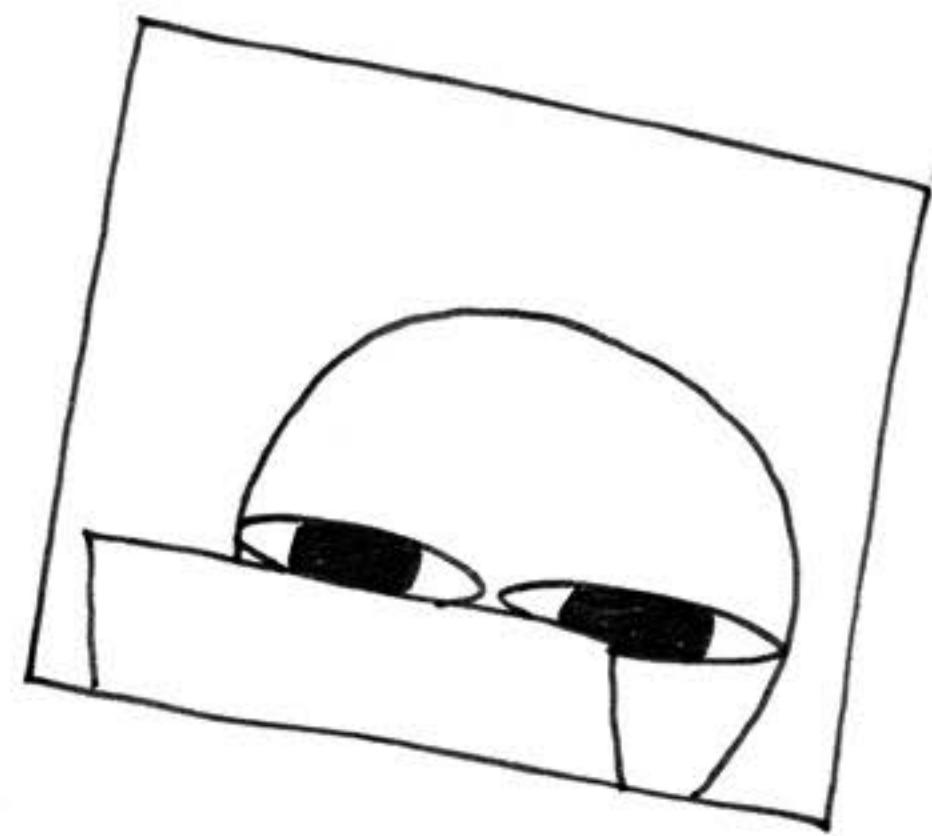
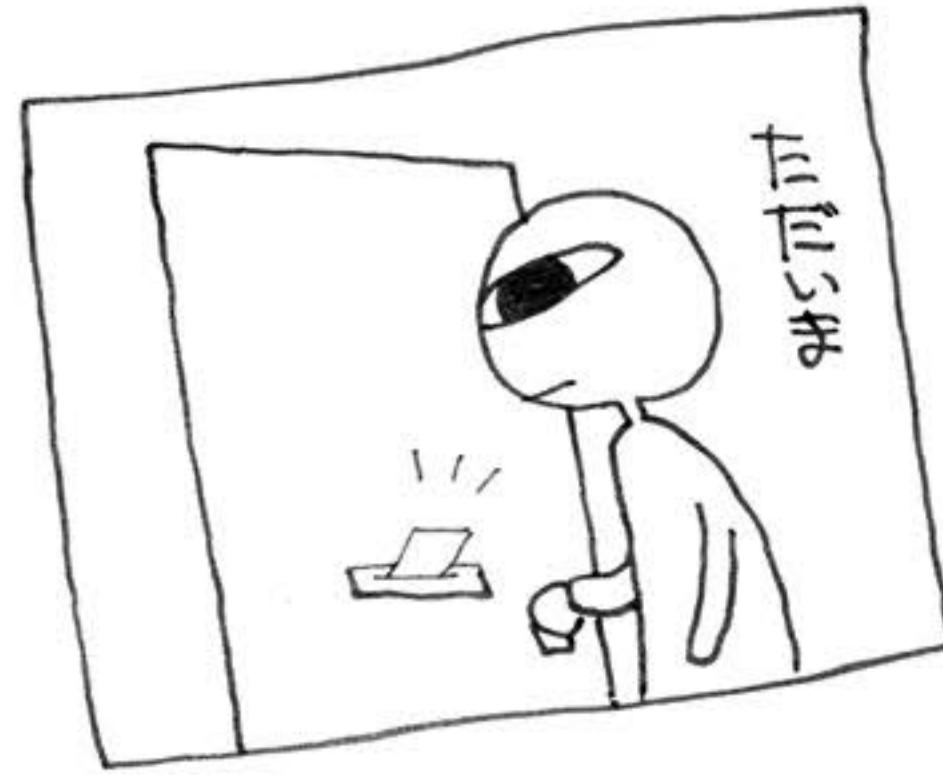


巨乳小学生M

ちゅわん

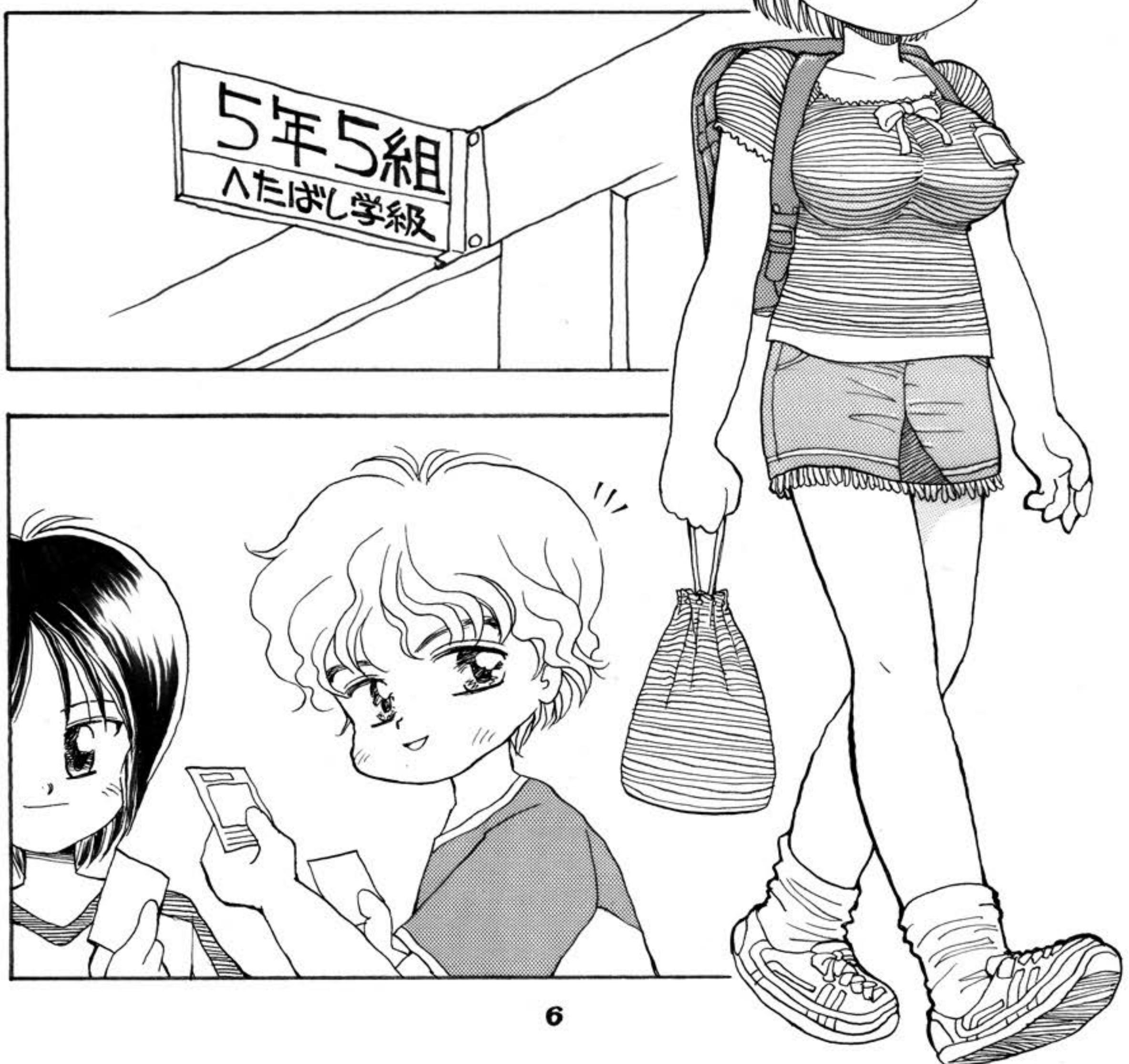
KYONYUU SHOUGAKUSEI M-CHAN

work by MIMUDA RYOHZOH



うるさいくから。







おふくろさん

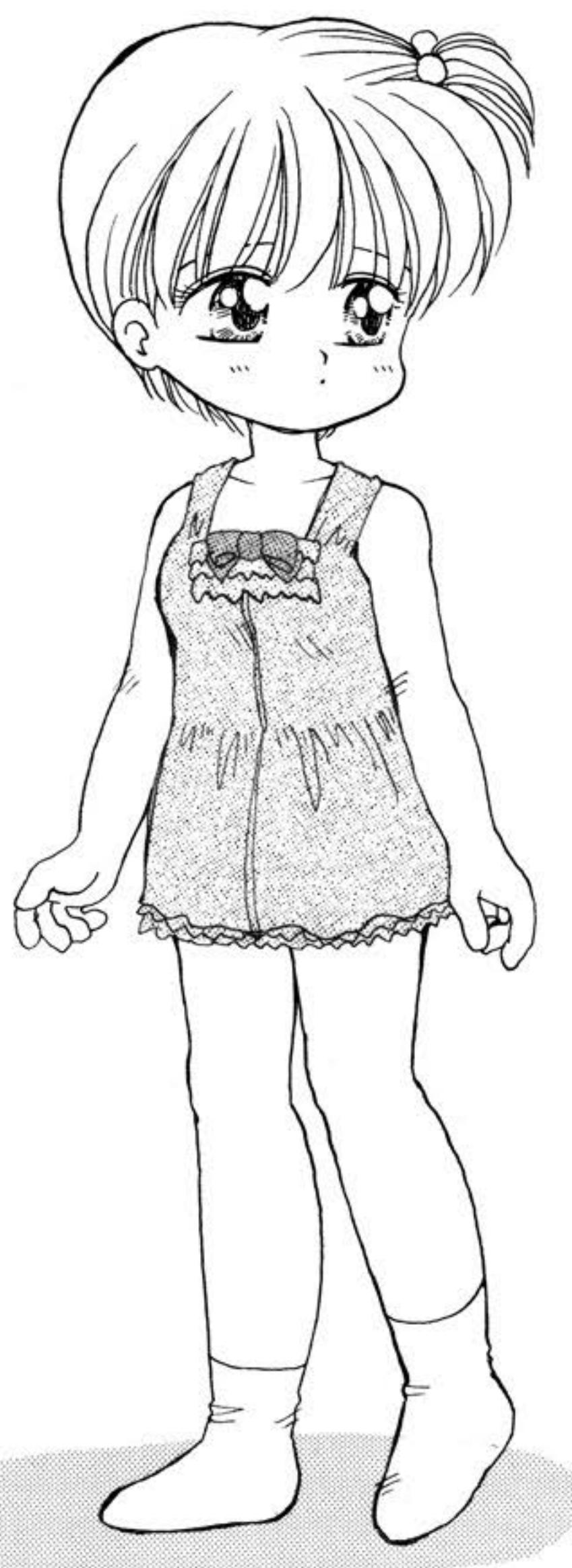
毎朝のコトなので
気にならない

まい
おなまー^一
ゆーちやー^一
たすけー^一

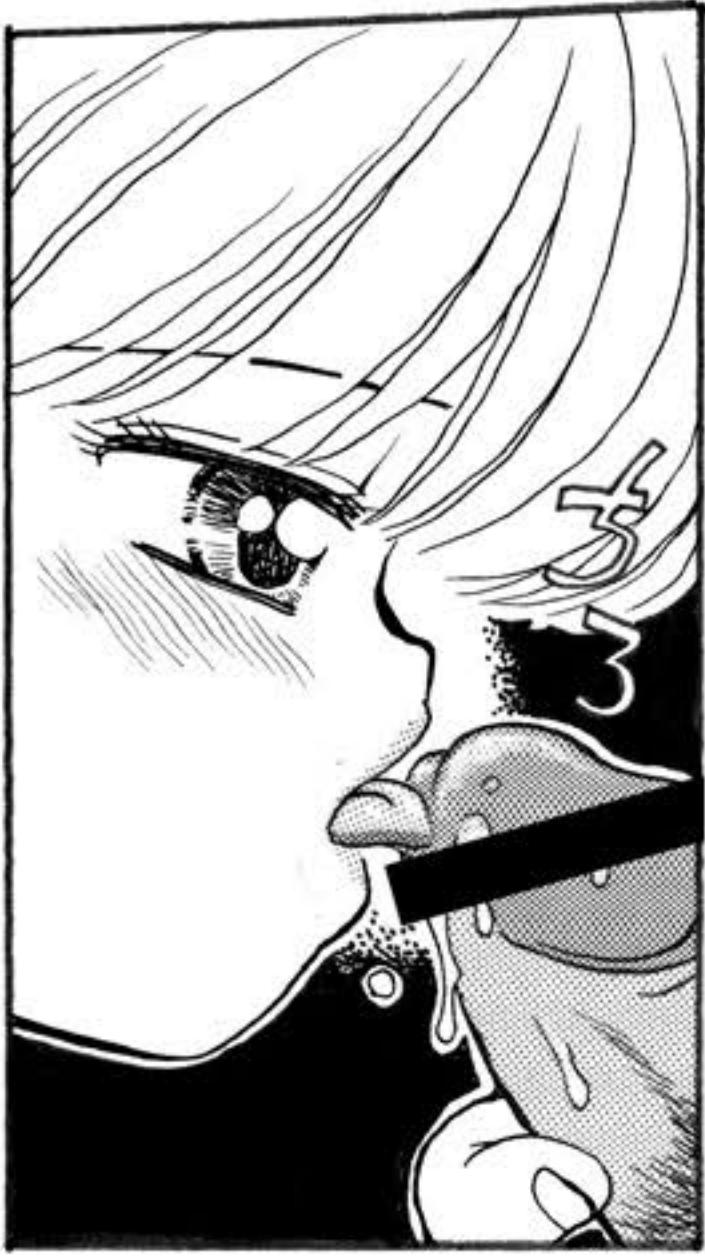
まい
おなまー^一
モテモテ^一

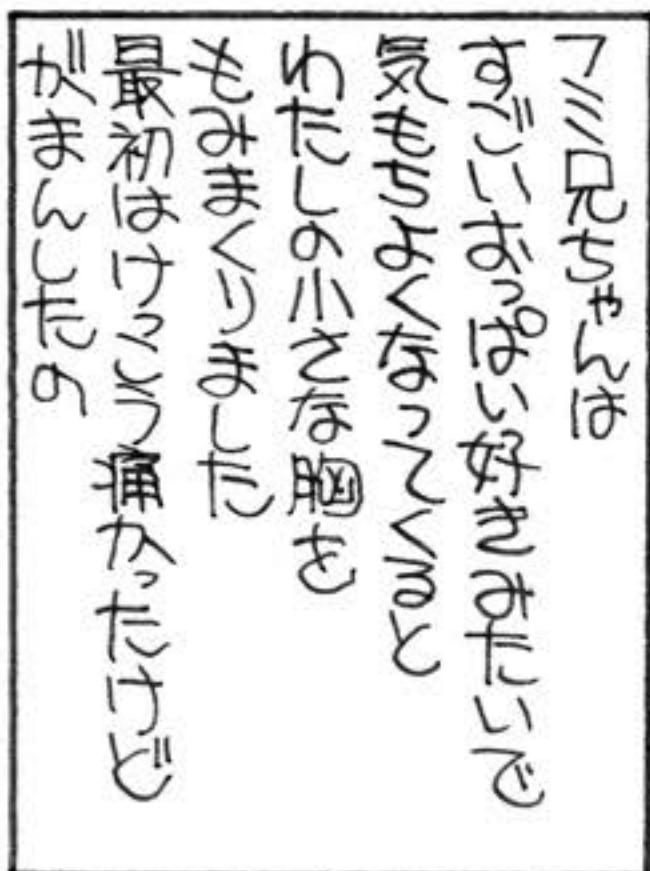


154



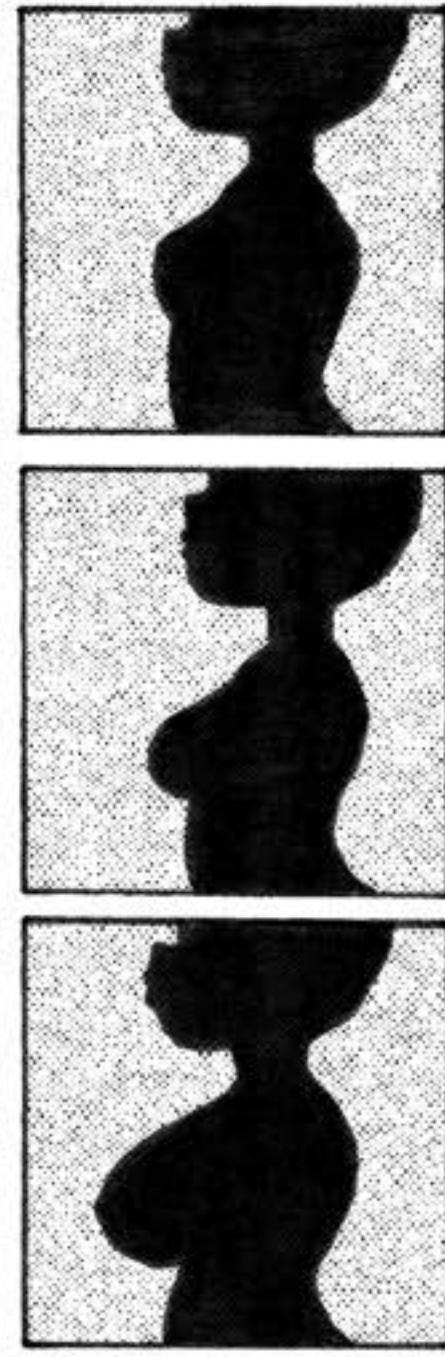
アリスの手元には、アーティストの名前と、アーティストの絵が書かれていた。







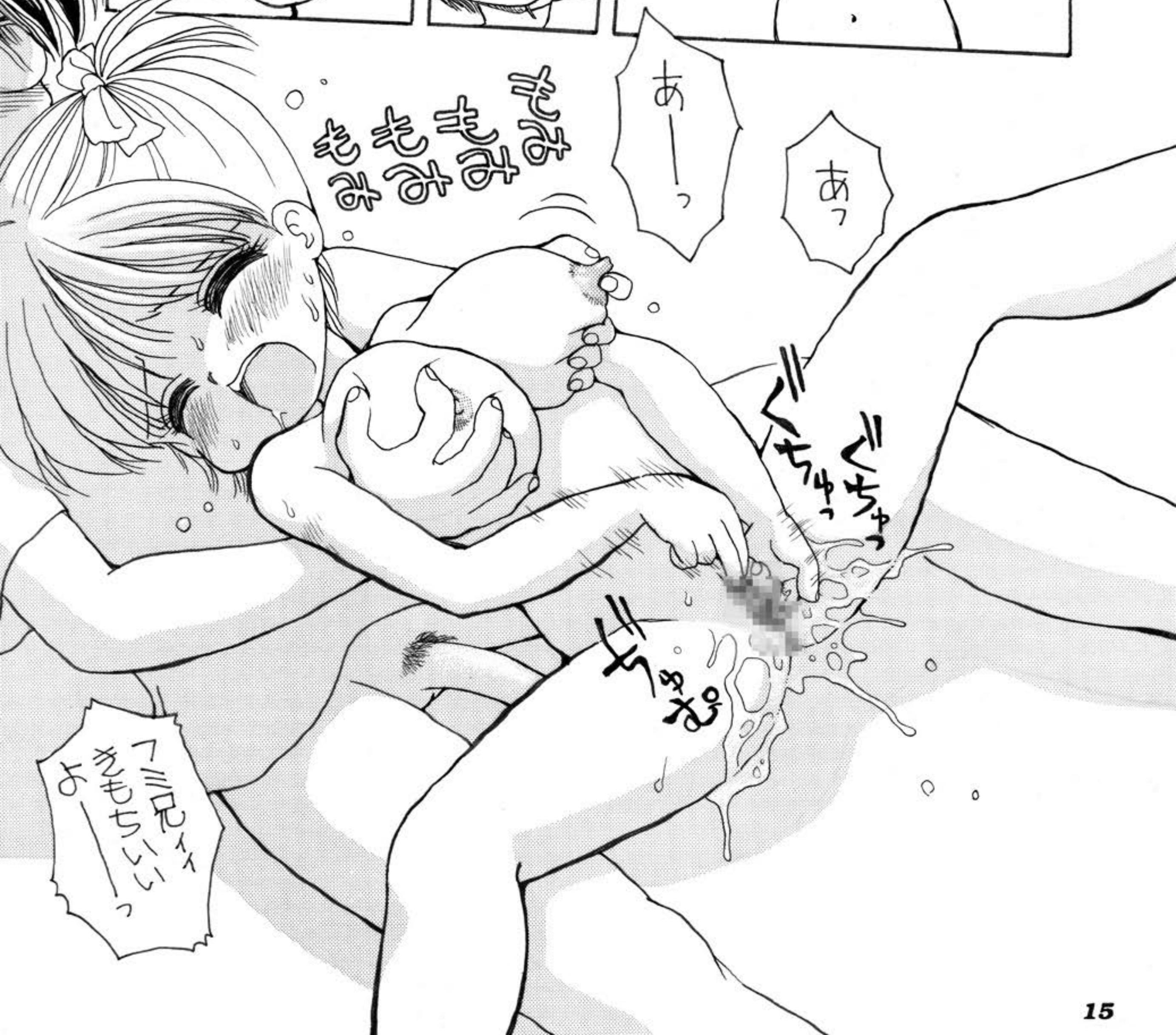
アーティストの絵は、このハサウエー





あ、もうじが直(ハシ)回(カイ)すに
変(ヘン)なホントモレ(モレ)が
出(で)ちゃ(ヤ)いたお(ア)ト(ト)で
わ(ハ)た(タ)し(シ)は
あ、ほ(ハ)う(ウ)烈(ク)激(ク)に
異(イ)常(カニ)て(テ)熱(ク)い(イ)の(ノ)本(ホ)質(シ)
な(ハ)い(イ)し(シ)め(メ)う(ウ)ま(マ)し(シ)







セックストを
しまして

ちなみに
フミ兄も
どうだったの?



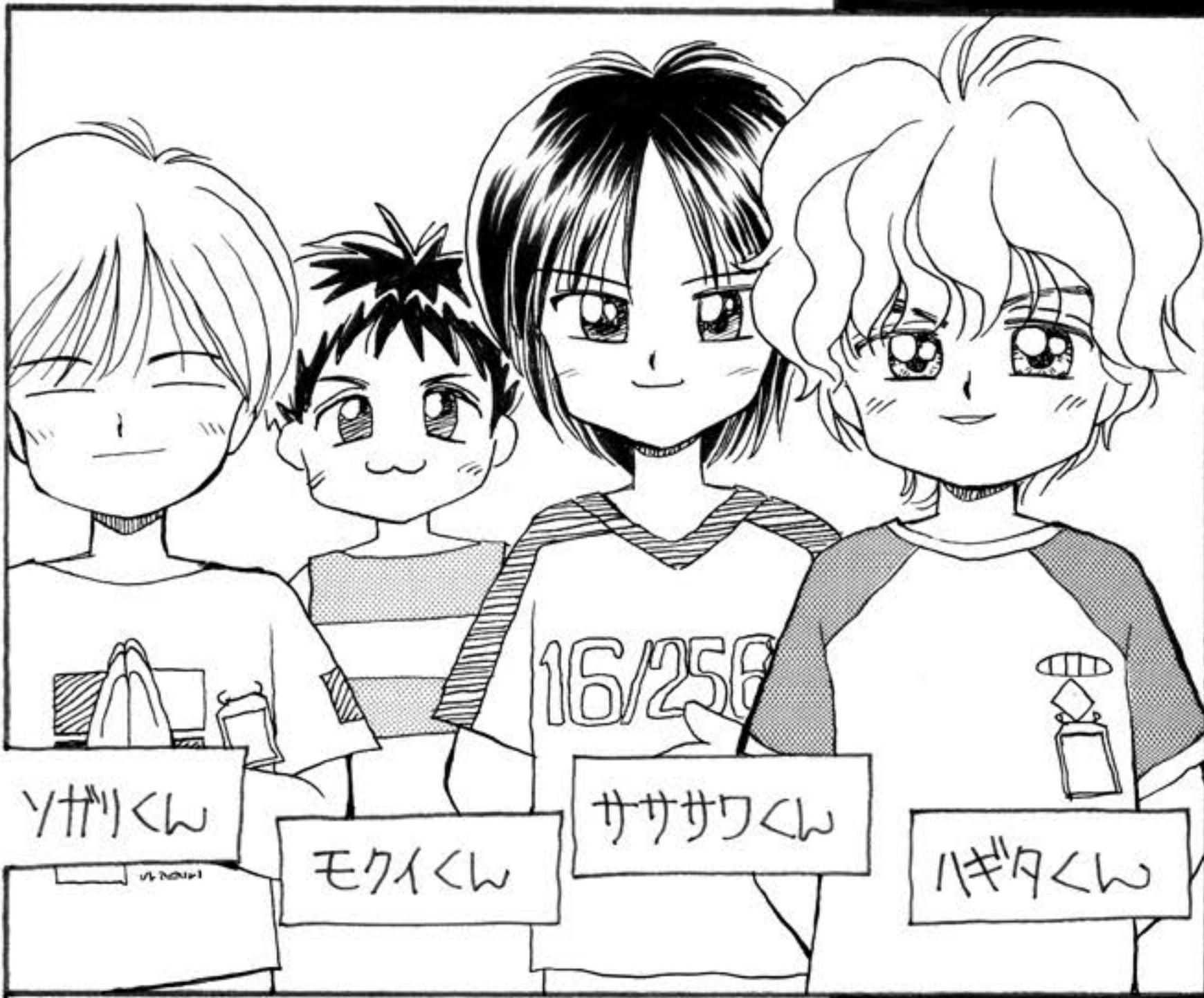


アーヴィングは、その死後、彼の死を悼む言葉を残す。アーヴィングの死後、彼の死を悼む言葉を残す。

1911年1月16日
晴天
風速
風向



準備室



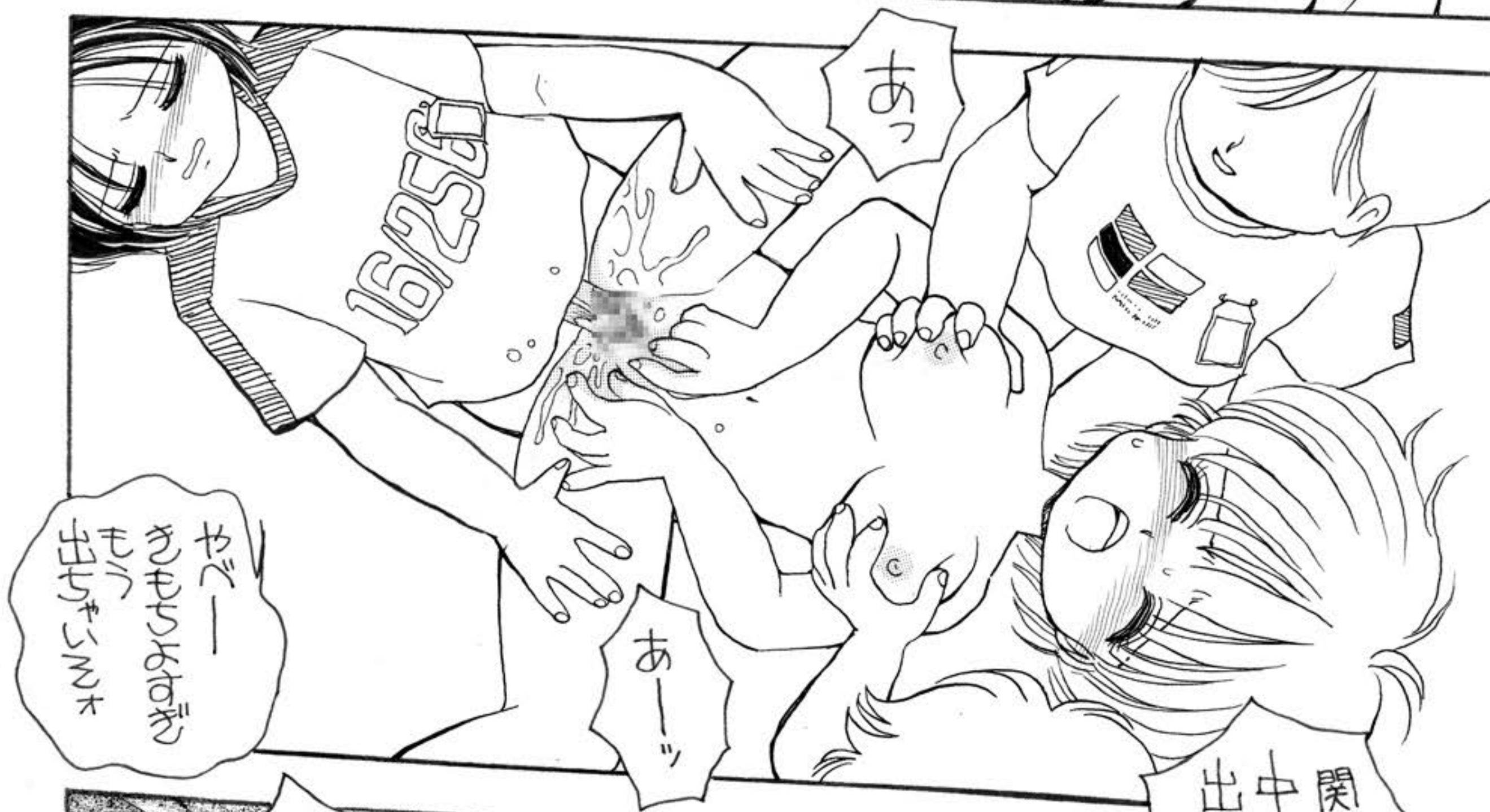
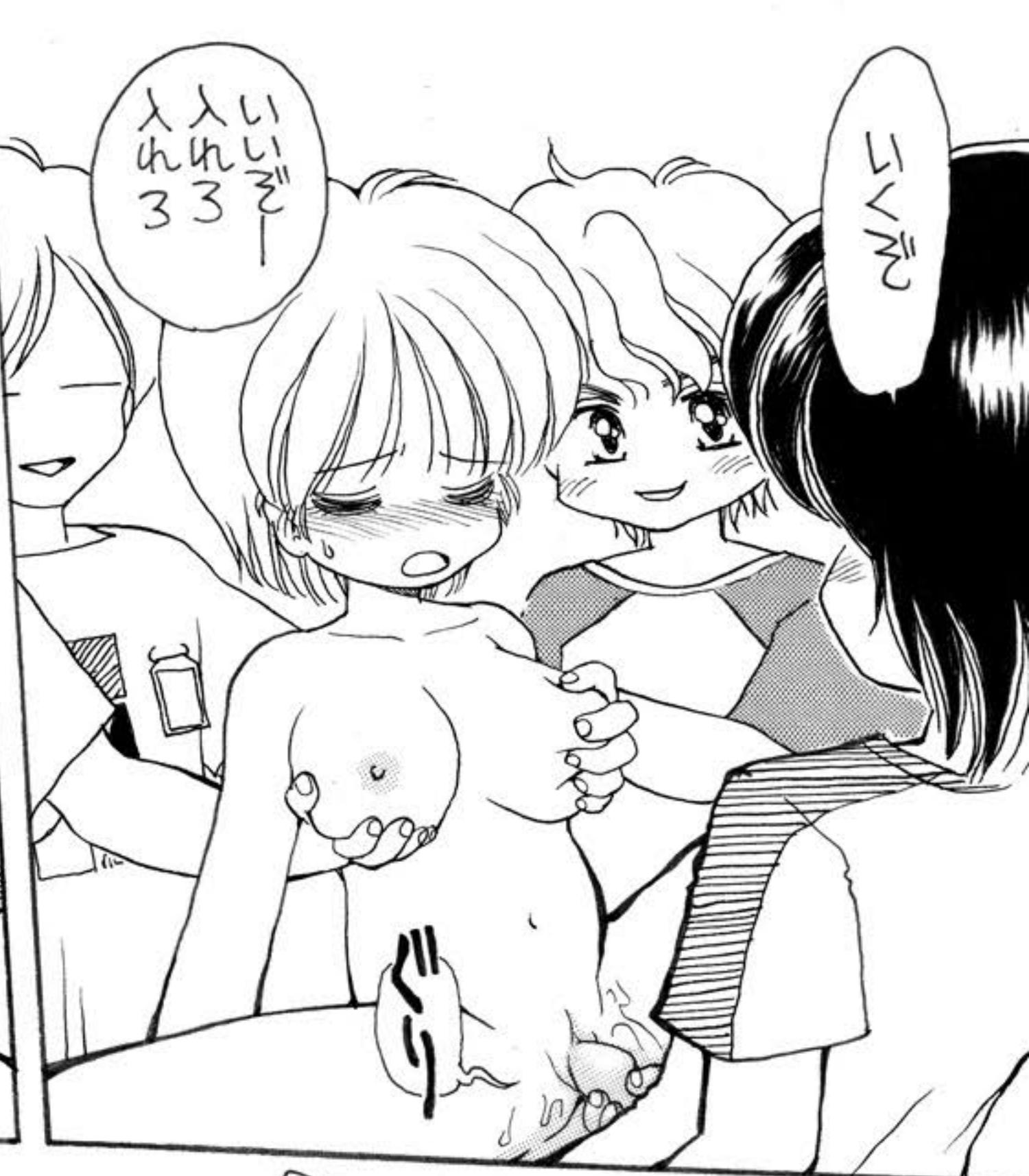


おじめは
ホントに
おもしろい
好きだよー

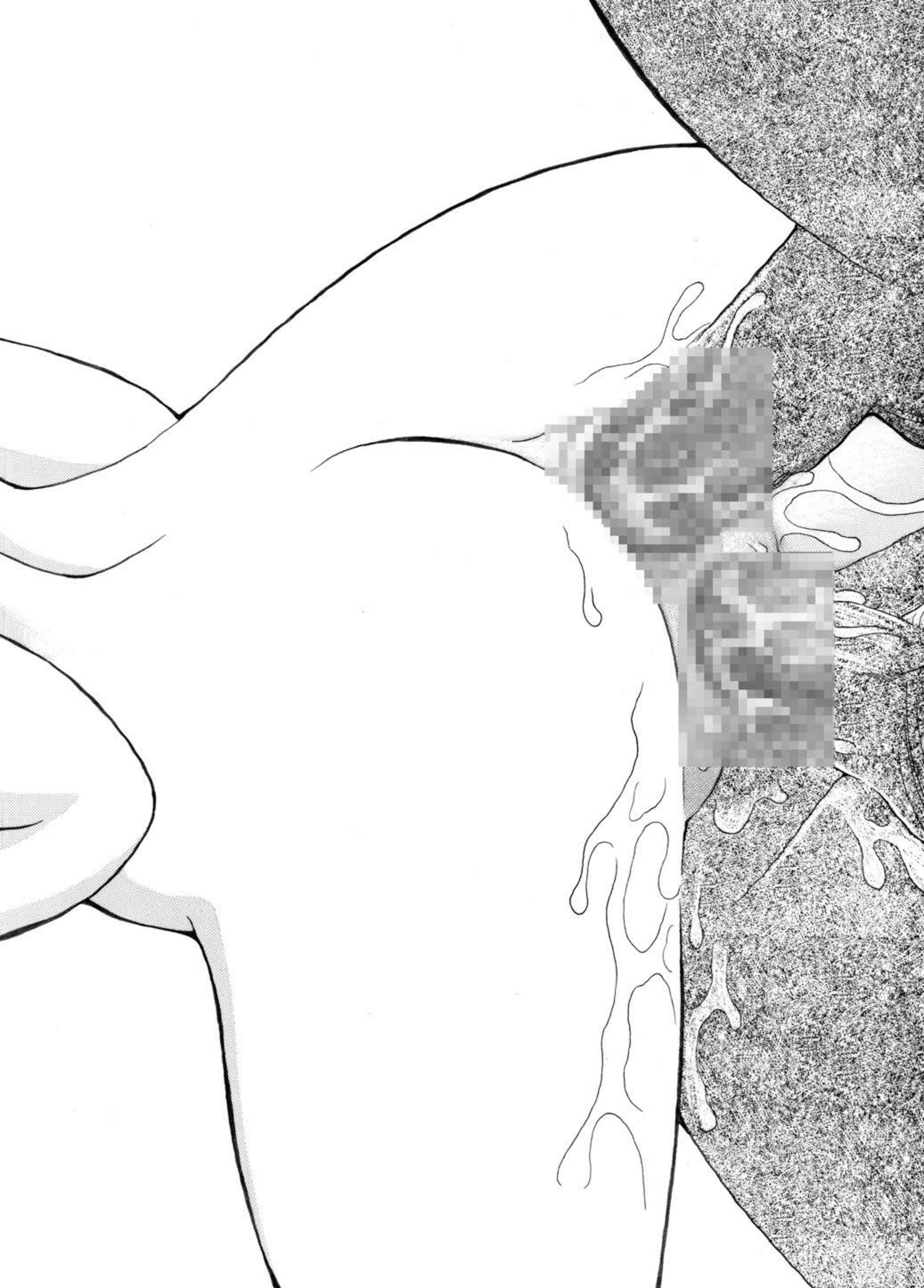
う…う…
わやかだ…

おじめ
おもし
気やかだ







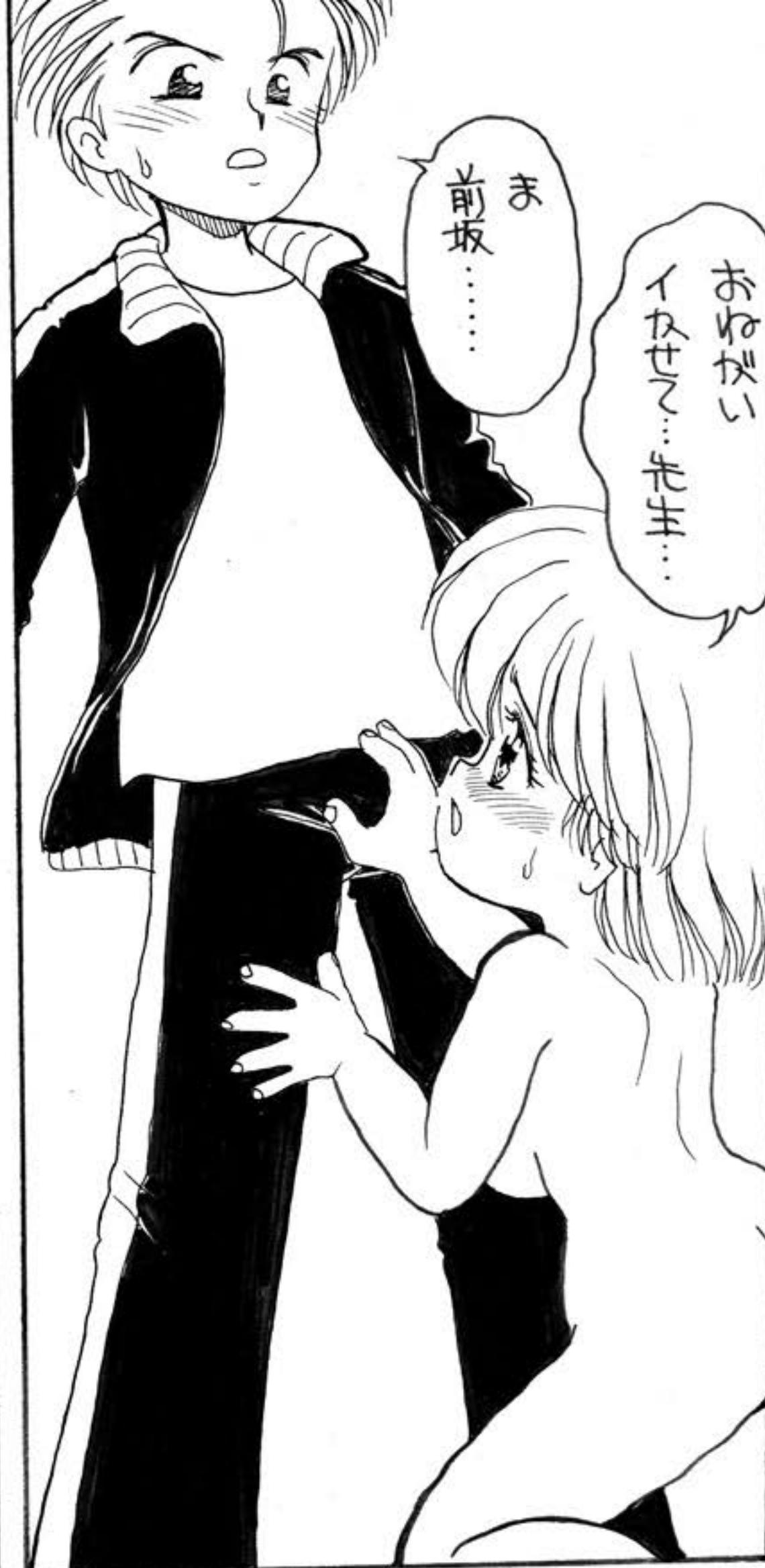




















あッ もッ あッ

レッ...イズ...

十七

三
一

あ・めて前坂

卷之三

100

出中で

A vertical decorative element consisting of a central vertical line flanked by four pairs of stylized, symmetrical black shapes resembling stylized 'W's or 'U's, with three small circular dots at the bottom.



鯖フレーク健康法



ちゅい～ス。

みむだ良雫でござゐます。まいどお買
い上げありがとうございます。ま～いいか。
なんか今回も**巨乳ロリ**です(汗)
…もう完全に取り憑かれてるかもしれ
づ。ま～いいか。

最近の**巨乳ロリ**のヒットといえば
近所に住む朝間ユミちゃん(仮)11歳
小学6年生(推定)であります。
ランドセルを背負って(最近は手提げ
が多いが….)登校してゆく姿がうちの
アパートの窓から見えるんで1年ぐら
い前から観察してたんですが、みるみ
るうちに生育してゆき最近はすっかり
たゆんたゆんです♡ 推定82cm(アン
ダー65)のDカップといったところか。
てゆ～か、あの**たゆり**加減は
もしかしてノーブラか!?
とにかく朝の一発目はコレで決まりっ
て感じ。うつ。
……犯罪だけはやめよう…(汗)

あと、ロリではないんですが、NHK
テレビ体操のM森S苗ちゃんの**巨乳**が
気になります。役的に相当おさえつけ
てる状態だと思うんだけど、それでも
凄え**ばゆんばゆん**です。うつ。

…はあはあ

ま～そんなわけで、**巨乳ロリ**はすっか
りみむだのライフワークのひとつにな
ってしまったようなので、多分次回も
また描くと思います。「少女は貧乳で
なければイカン!!」という方には申し
訳ナッシングですが……(でも貧乳ギ
ライになった訳ではないので、それは
それで描くと思うけど)

では次回は秋のレヴォあたりでお会い
しましょ～♡

それが、みむだ良雄の遺作となった――

巨乳小学生Mちゃん

発行日：2000年8月13日

サークル：寺田尚子

連絡先：

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

E-mail :

[REDACTED]

※無断転載禁止



KYONYUU SHOUGAKUSEI M-CHAN



月刊小学生

ちゅう

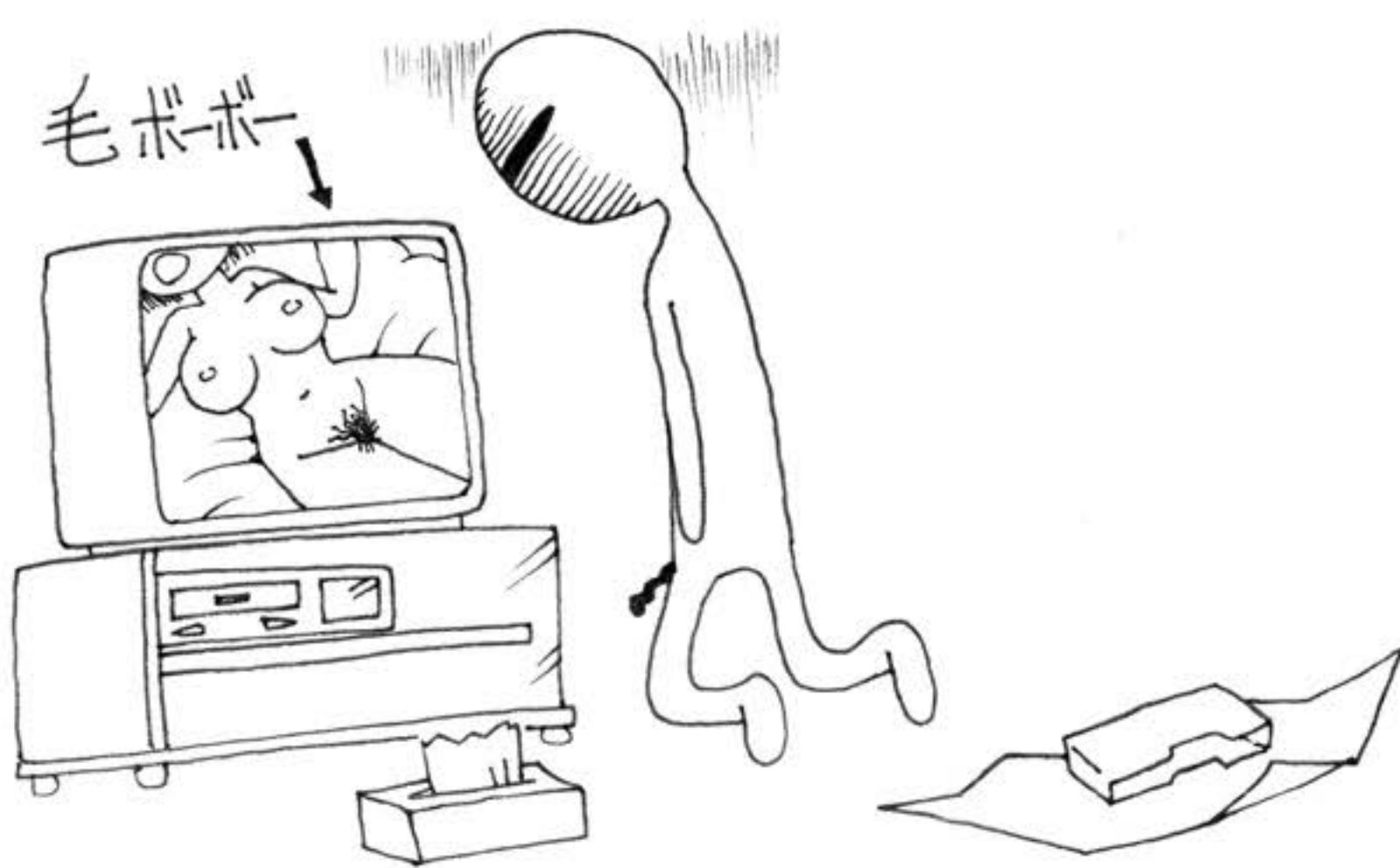
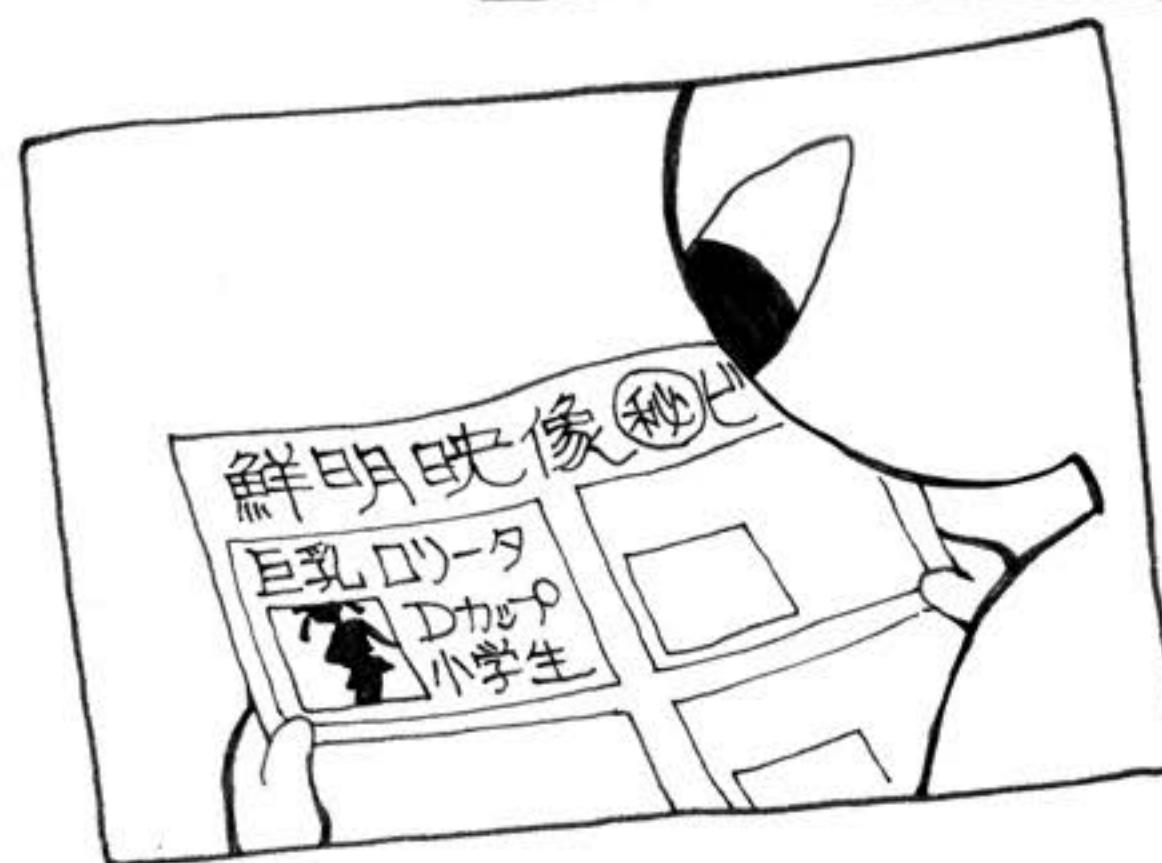
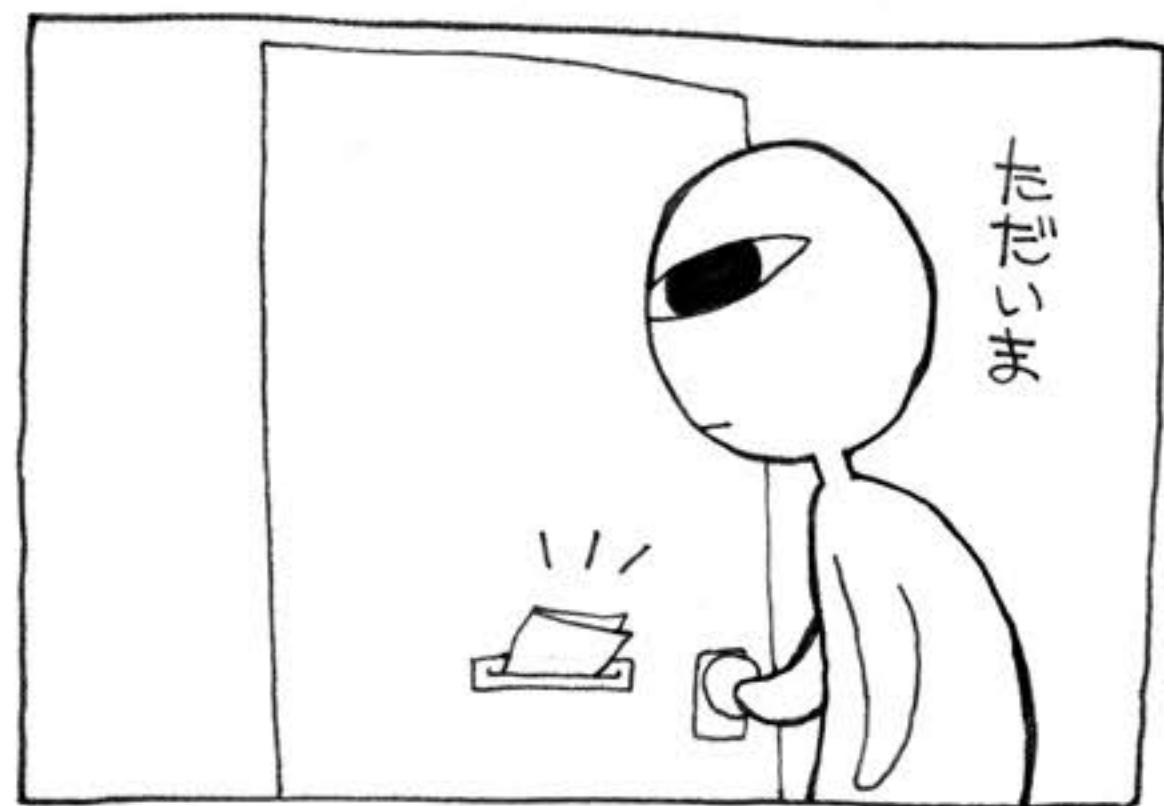
成年
コミック

KYONYUU SHOUGAKUSEI F CHAN
FUKAZAKI UMIMI

work by MIMUDA RYOHZOH

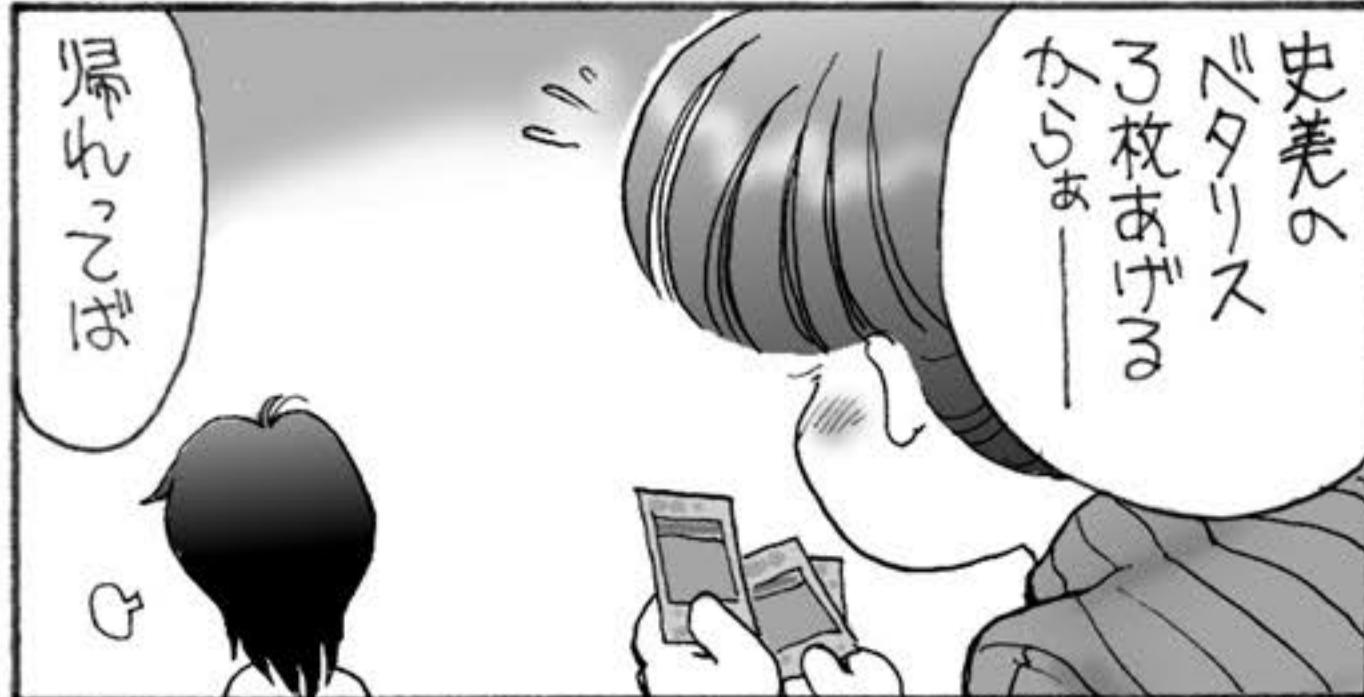
改訂版

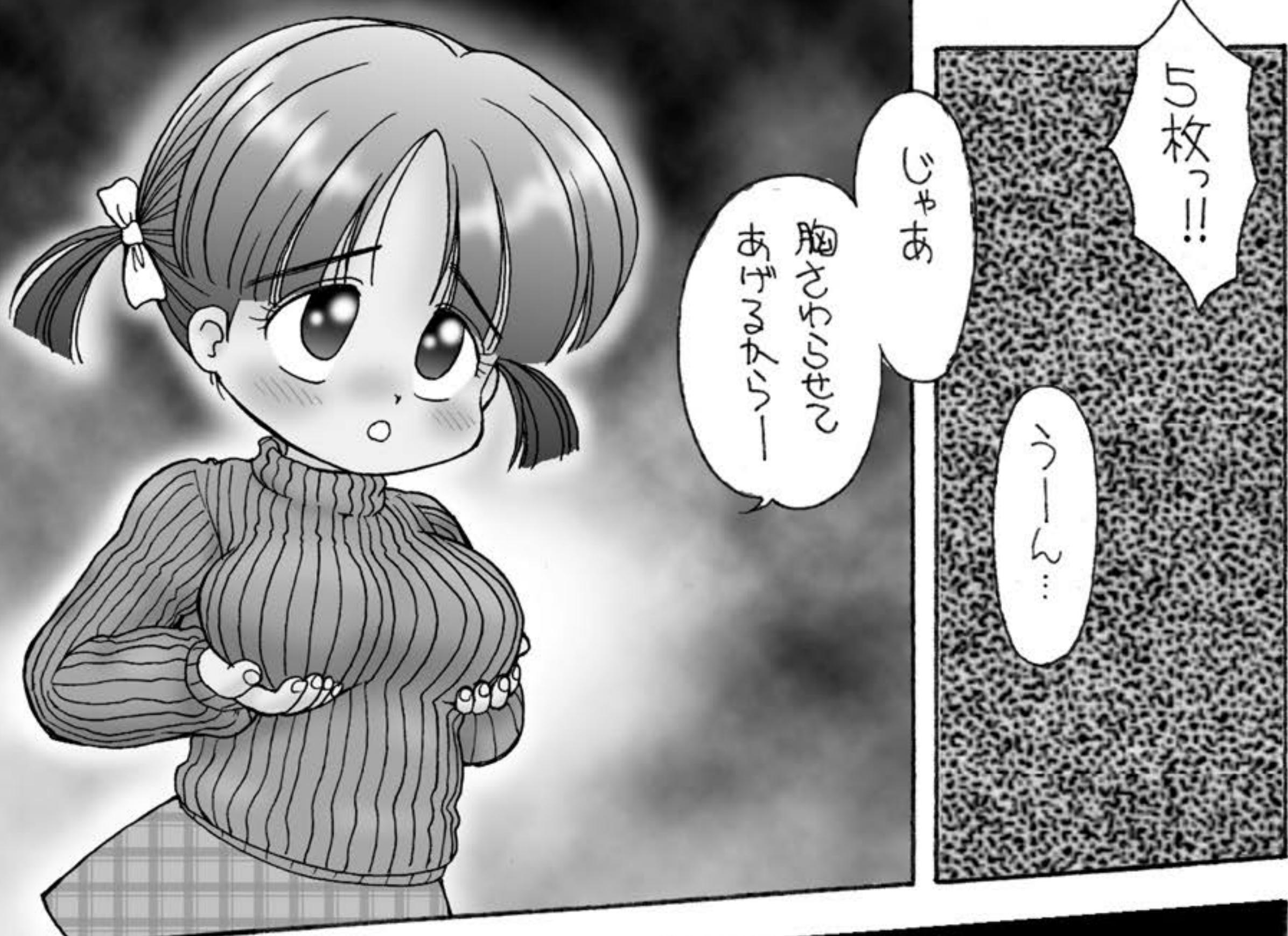
巨乳リータVの民





深崎史美ちゃん
12さい(小6)
バスト84cm(Fカップ)







今日
な
か
た
か
い
ー
ア
な
こ
だ
♡

ま
う



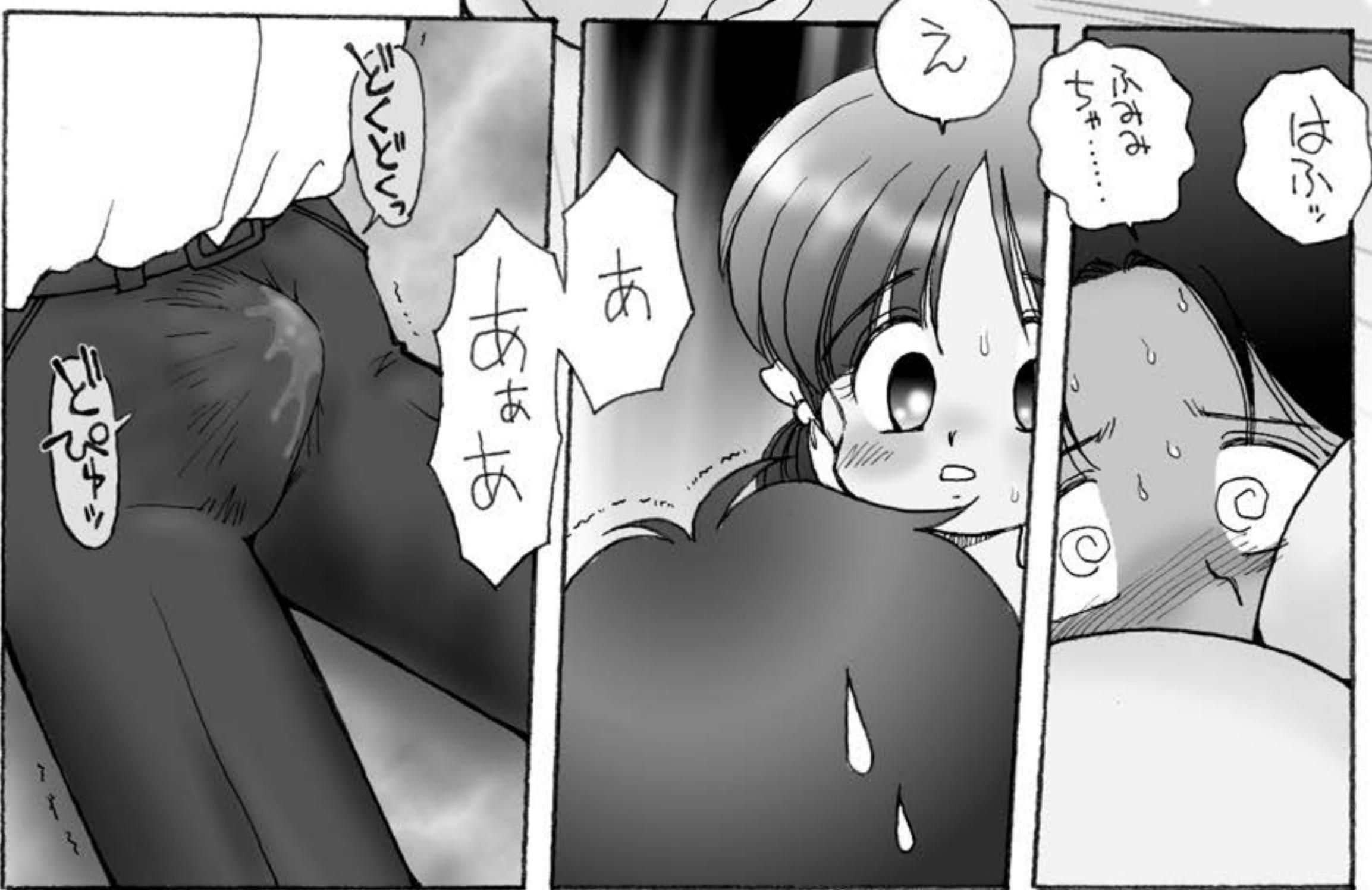
おひるね



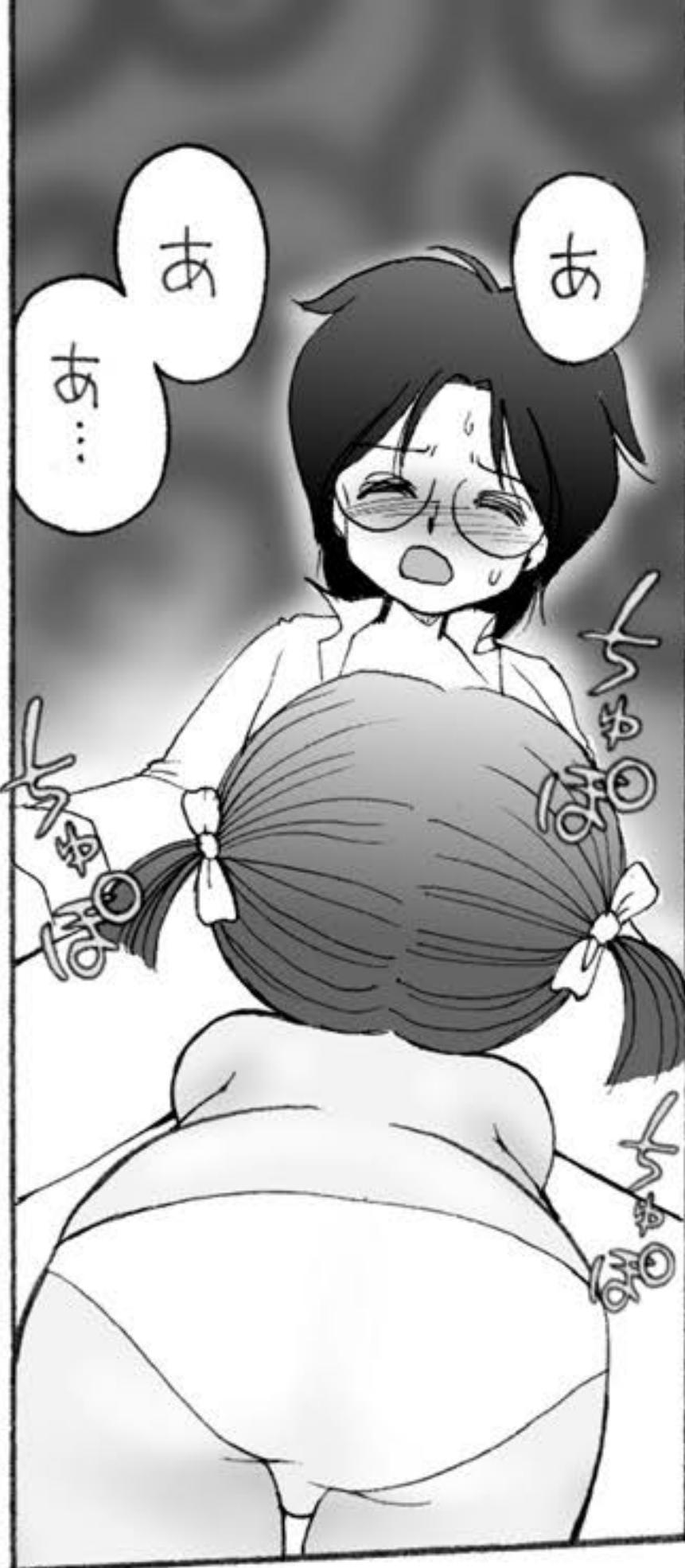
お
に
や

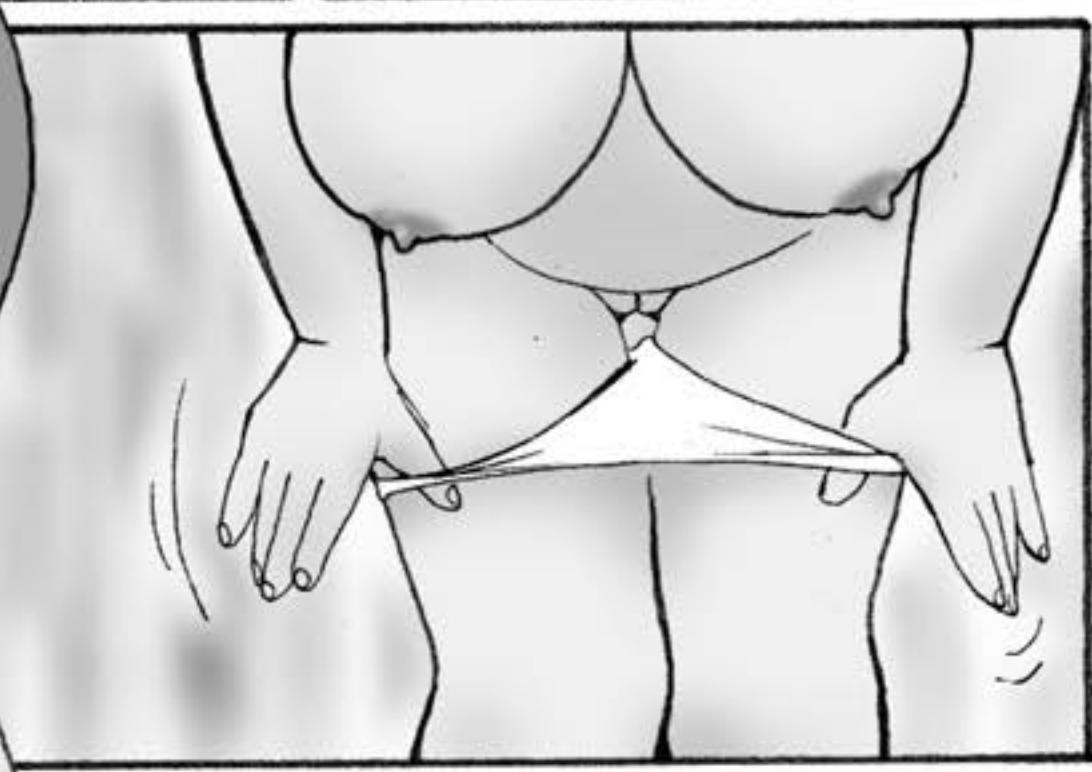






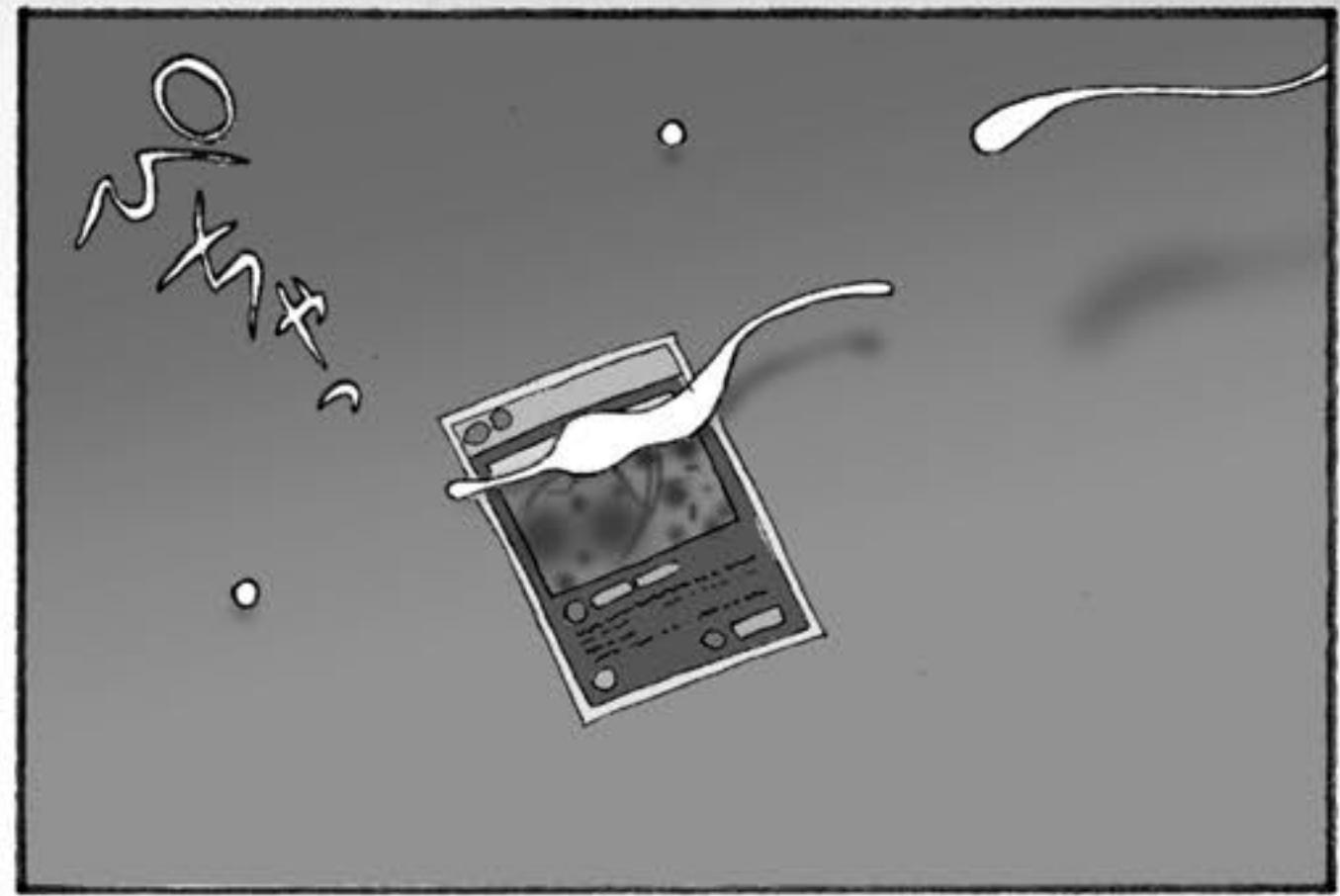


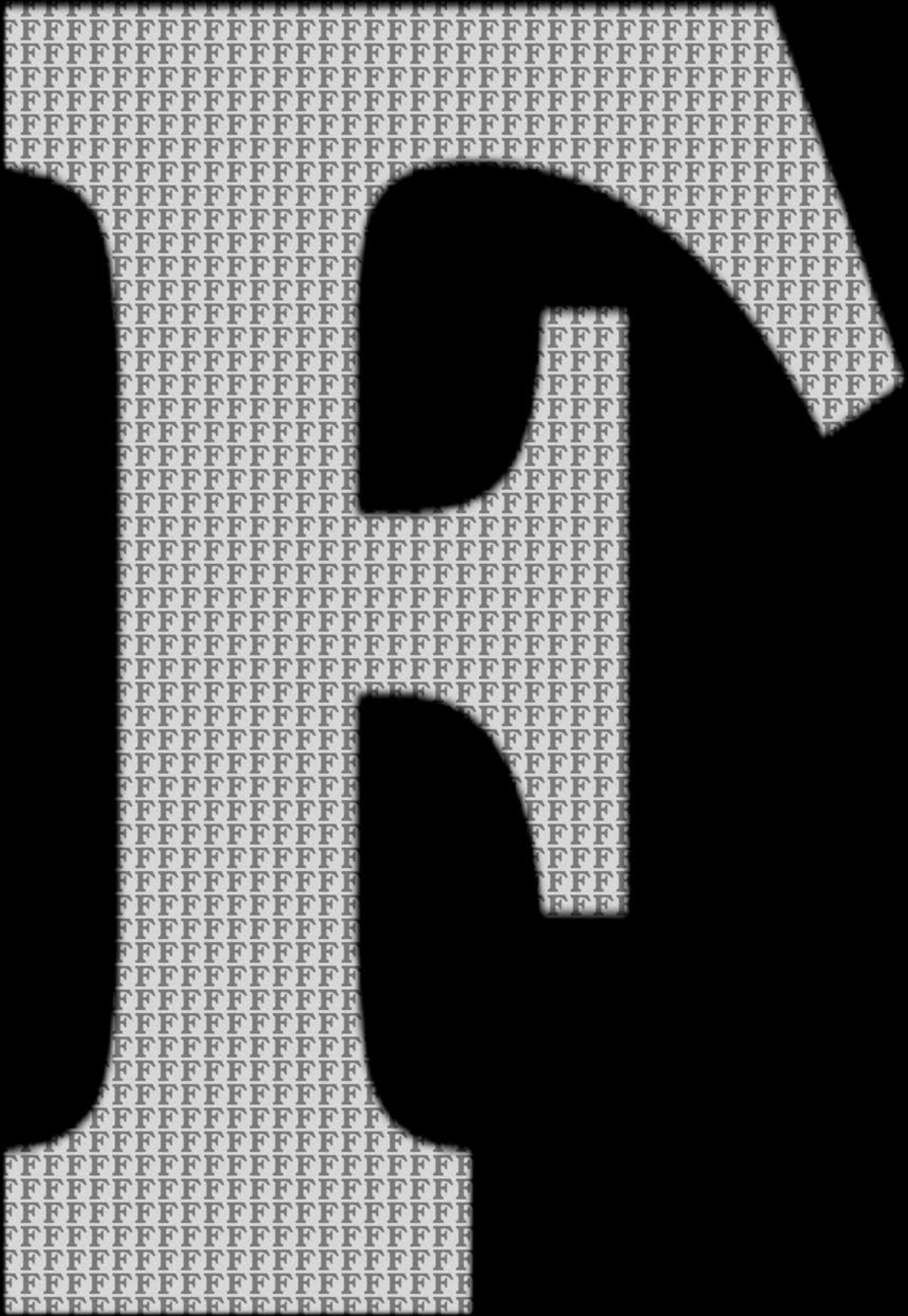












超爆乳小学生Fちゃん

usako

ふさこちゃんの家は4人家族。
お父さんと、ふさこちゃんと、8歳の弟と7歳の妹。



お母さんはふさこちゃんが小学校に上がる前に他界して
しまいました。



お父さんは毎日酒びたりで
ろくに収入がないので、とても
貧乏です。

でも、幼い弟妹の面倒を見るため、
ふさこちゃんは4年生の頃から
カラダを売つて日銭を稼いで
いました。

毎日毎日、放課後になると、どこから噂を聞きつけた
口りコンおやじたちがふさこちゃんの元にやつてきて、
その幼いカラダを貪り、欲望をぶちまけてゆくのです。





・・・・・

また、
相場というものが
よくわからない
ふさこちゃんは、
一回一〇〇〇円から二〇〇〇円程度で商売をしていたので、
あまりお金のない高校生や中学生までもが
ふさこちゃんのカラダを求めて集まつてきました。

そんなことをくりかえすうち、
ふさこちゃんのカラダは
みるみるうちに性成熟してゆきました。

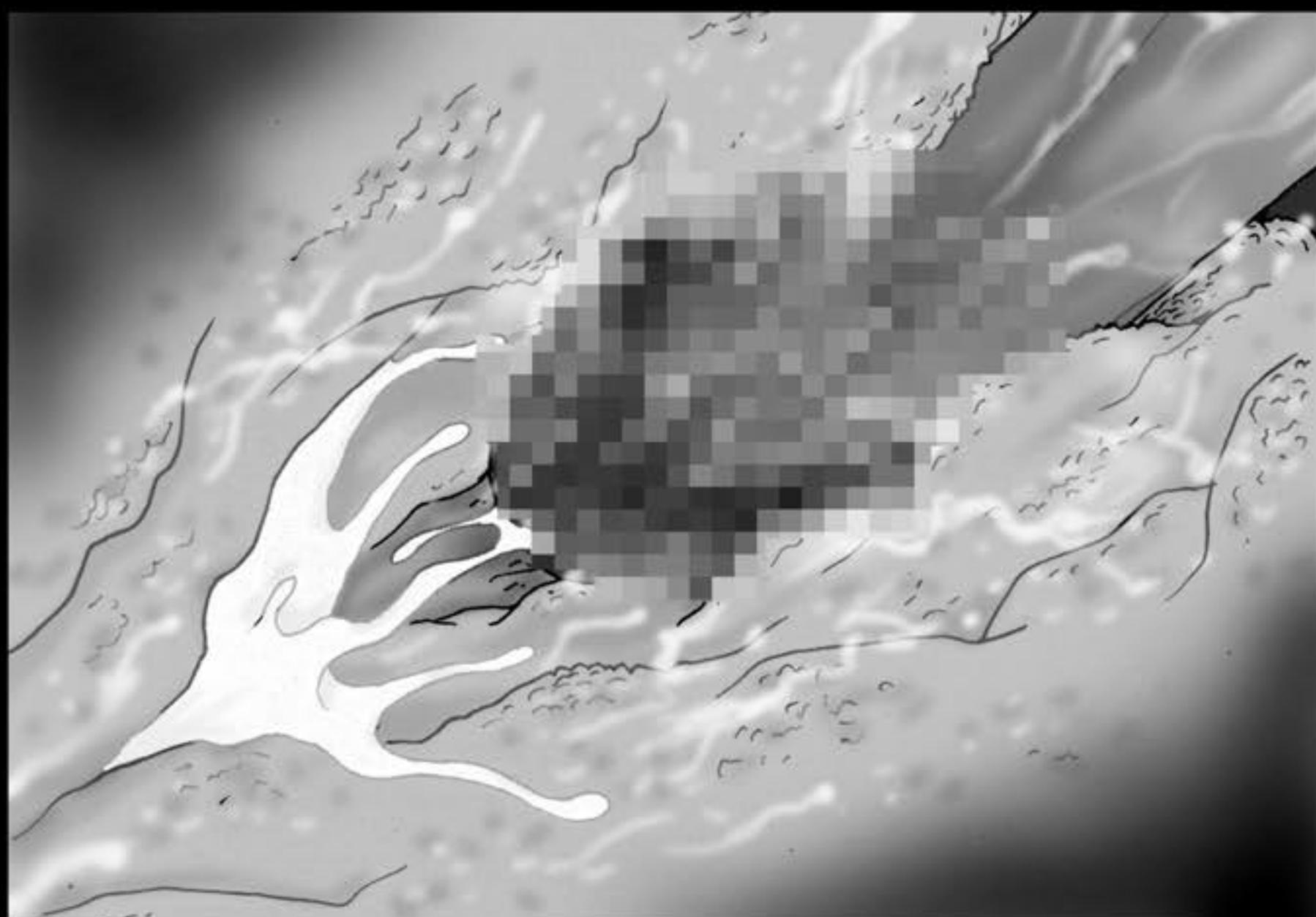
特に乳房は加速度的に
ボリュームを増していくのです。





そのため、
ホルモンのバランスが
崩れてしまつたのか

でも、
避妊の知識やモラルに欠ける少年達は
ふさこちゃんの膣内に
バンバン中出ししてしまって、
ふさこちゃんはわずか12歳にして
3度の流産、1度の墮胎手術を
経験していました。





ふさこちやんの乳房は、
異常に膨張はじめたのです。

さらに、乳首からは大量の母乳が噴き出し、
流れ落ちます。



もはや、この超爆乳を被い収めきることのできる服もありません。



それでも
幼い弟妹の面倒を見なければならない
ふさこちゃんは
母乳のしたたる重たい乳房を抱え上げ、
周囲の好奇の目に晒されながら、
小学校に通い
商店街を歩き回り続けました。





そんなふさこちゃんの異様で惨めな姿は
町中の噂にのぼり、
隠し撮りされた写真が
インターネット上で公開されるに及んで、
世界中の人々の前に恥を晒すことになつて
しまつたのです。



毎日全国から
超乳マニアの変態が
押し寄せ、
本当はまだ12歳の
ふさこちゃんを
犯し、汚して
ゆきました。





それでもふさこちゃんは、
わずかなお金を得るために
カラダを開き続けるしか
ないので。

嗚呼、

ふさこちゃんは
これから先
どうなつてしまふのでしよう



物象ドキュメンタリー②

抗電磁波念動力ピアノ



まいど、おかい上げありがとうございます。

みむだ良雑です。

今回もまた巨乳口りです。 もはやレギュラー化してしまったような感じですが(汗)

前作「Mちゃん」の評判は、まあまあだったようですが、やっぱり否定的なご意見もけっこういただいてしました。

多分これからも巨乳小学生ネタは描いてゆくと思いますが、別に貧乳口りをやめるつもりはないので、どうか見捨てないでくださいね。

てゆ～か今回とくに「ふさこちゃん」は受け入れてもらえるんでしょうか……

ところで、前回「巨乳小学生サイト」の告知をチラッと載せましたが、実は入稿直後にURLが変更になっておりました(汗)

それまで利用していた無料サーバーから強制削除されてしまったんですね。

新URLは

<http://www.age.ne.jp/x/microdat/tayun/>
となっております。

よろしかったらご覧くださいまし。

では、次回は春レヴォあたりでお会いいたしましょう♡

2000冬 みむだ良雑拝

それが、みむだ良雄の遺作となった――

巨乳小学生Fちゃん

発行日：2000年12月30日

サークル：寺田尚子

連絡先：

E-mail :

URL : http://[REDACTED]

※無断転載禁止



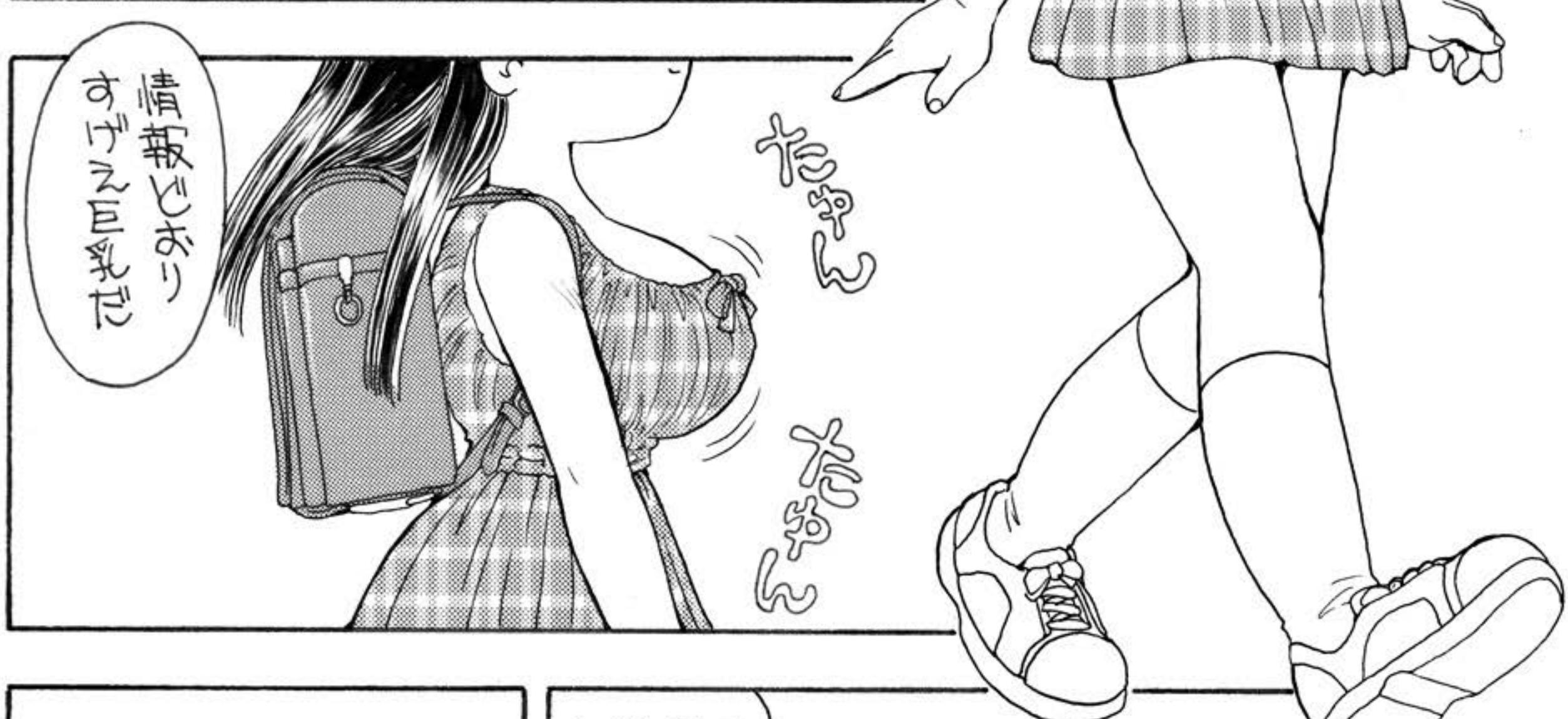
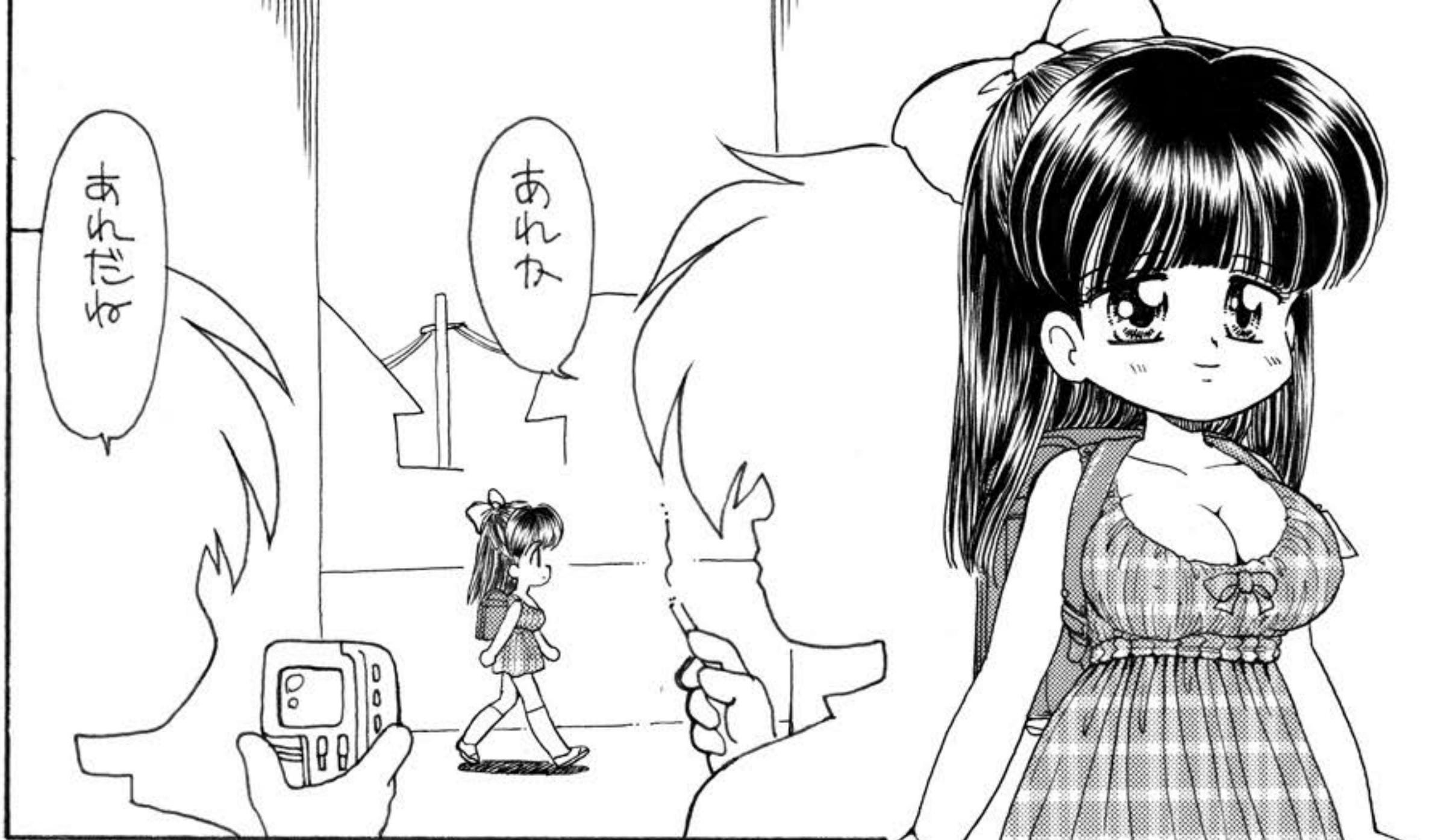
巨乳小学生リちゃん



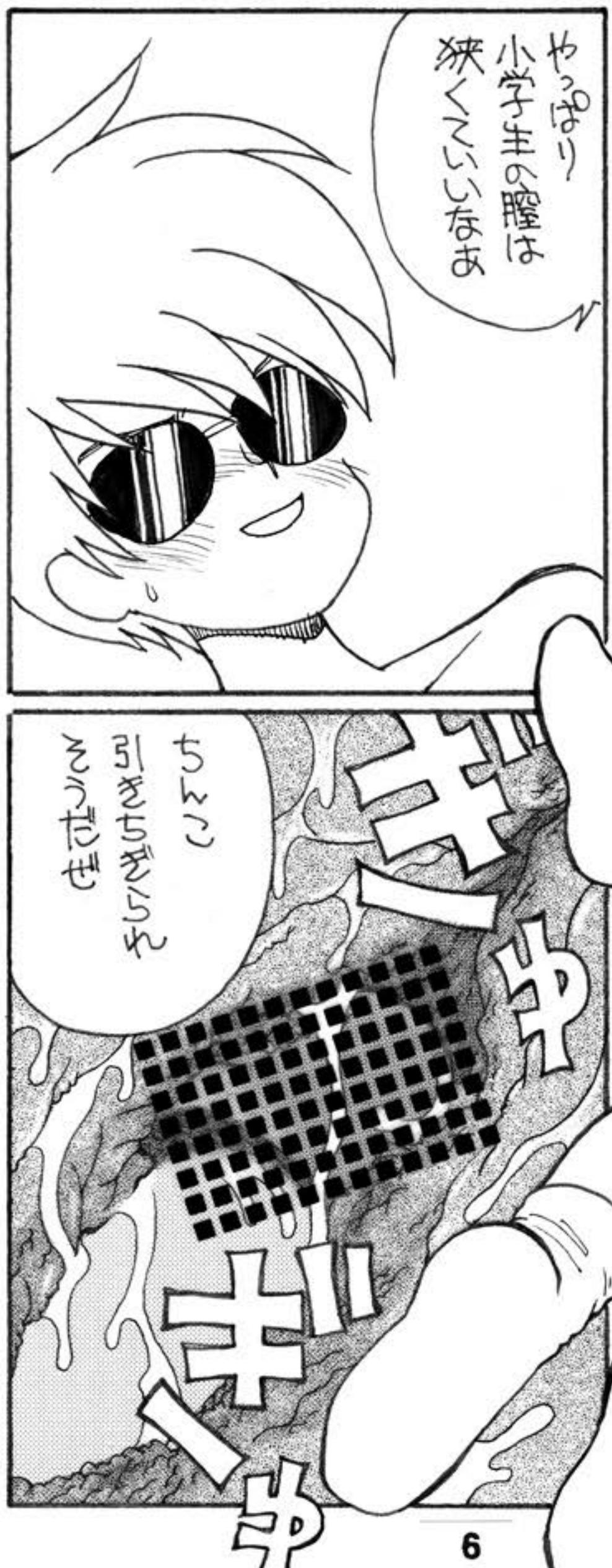
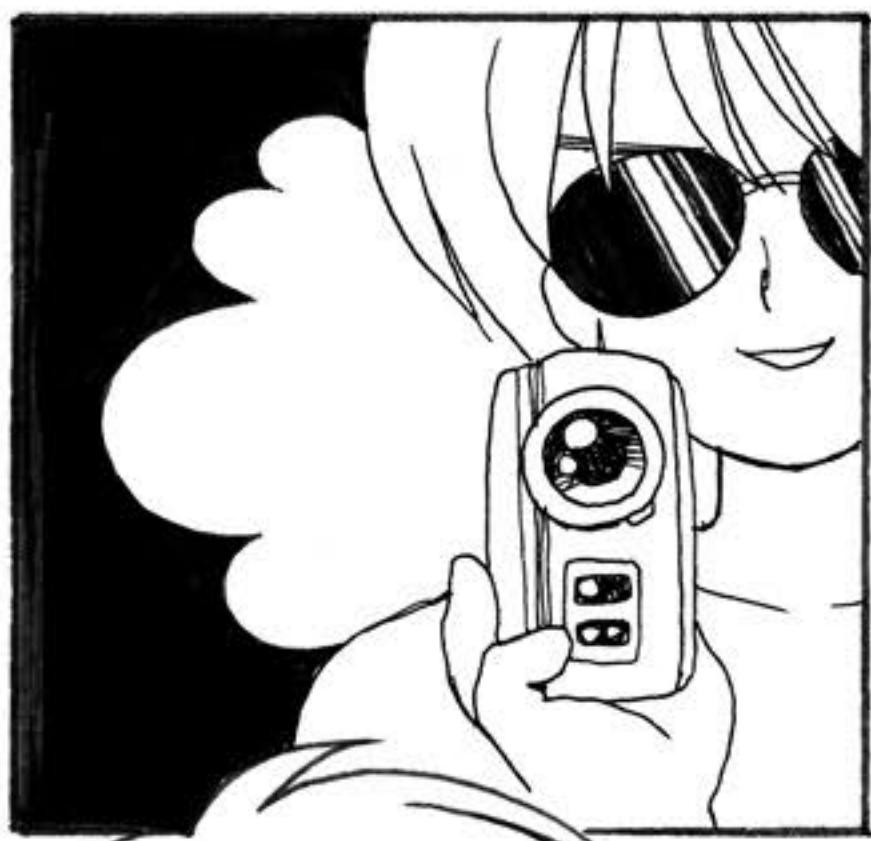
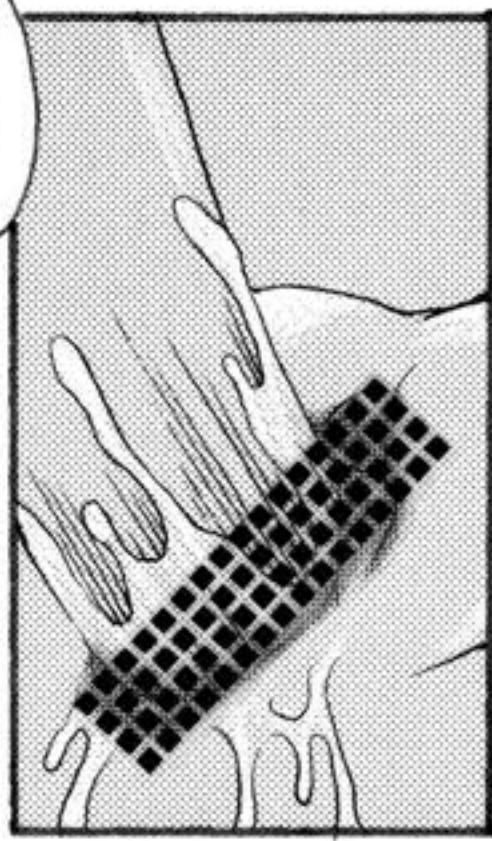
成年
コミック

巨乳小学生





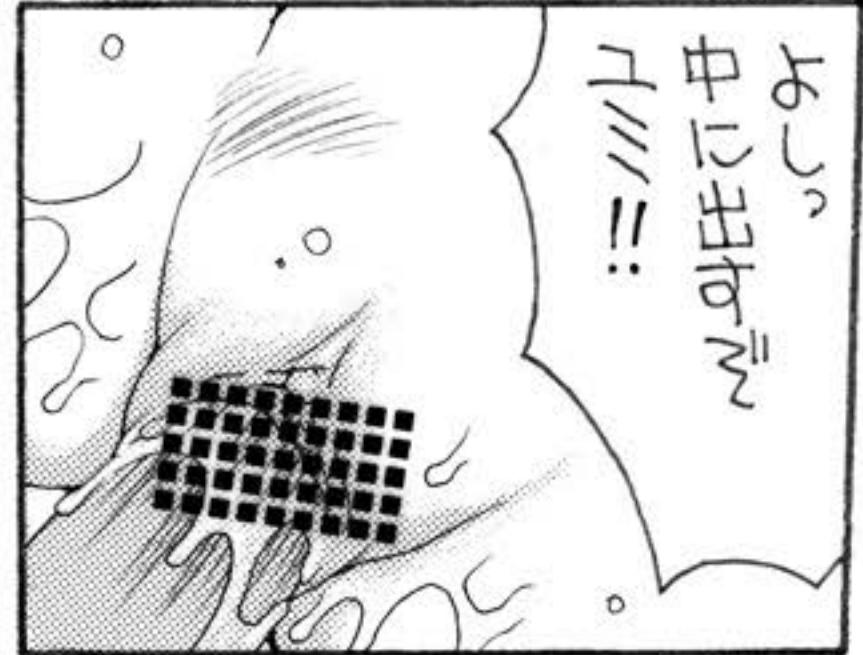














みむだ良輔 □やまだけまんが・巨乳小学生ユミちゃん

ZIPに載ったカット→



↓パピボに載ったカット



巨乳小学生やよいちゃん



「おにーちゃんつ、ちょっと池袋までつきあつて〜」
近所に住む従妹の弥生が、いきなり部屋へとびこんで来た。
「なんだよ、もう6年生なんだから池袋ぐらい一人で行けるだろ」
「だつてえ……最近一人で電車に乘ると、すぐ痴漢に遭うんだもん……」
弥生は、小学6年生――12歳だが、バストがDカップほどある。でも
体が小柄でアンダーバストが小さいので、比率からいうと大人のF・G
カップぐらいのボリュームに見えてしまうのだ。
しかも、この暑さで薄着な上にいつもノーブラでいるので、痴漢の目
にとまり格好の餌食にされてしまうのも無理のない話かもしれない。

小さい頃から弥生のことを妹としか見ていない僕ですら、
ときどき劣情にかられて、さりげなくその柔らかなふくらみ
に触れてしまつたりもするくらいだ。
「いいじやん、おにいちゃんたつてどうせ暇なんでしょ?」
「兄ちゃんも一応受験生なんだけどな」というか浪人だし。
「受験生だつてたまには息抜きしないと、色々たまつちゃう
でしょ。従兄が性犯罪でしょつぴかれでもしたらヤダしへ」
「せ、性犯罪つて……そこまで言うか……」
「だつて、やりたいざかりの十九歳なのに彼女もいないんだ
し……。ね、今日は弥生がおにいちゃんの彼女になつてあげ
るから、出かけようよ♡」
やりたいざかりって、オイ。ま…そのとおりだけど。なんつも口の達者な小6女子だ。
「まあ、別につきあつてもいいけどさ……弥生が彼女じゃ、肝心のアレの解消ができないよな」



作：伊織田美苗
絵：みむだ良雜



「アレも……してあげる……」
不意に、弥生の手が、僕のジーンズの前に触れてきた。すると、中のモノがみるみる大きくな張り出した。
「あ…………力たあーい…………」
弥生は、ジーンズの布越しに、僕の勃起したペニスを握り、指でなぞり、撫でます。
「あッ…………ダメだよ…………弥生い…………感じちゃう…………」
恥ずかしながら、僕は彼女いない歴十九年。女の子にペニスをこんなふうに触られた事などない。
いつも、女の子の細くて柔らかい指にしごかれるのを想像しながらオナニーしていたけど、ほんとに……ズボンの上からでもこんなに気持ちいいなんて……。

「アレつて……できない？」
「いきなり、弥生の声のトーンが変わった。あらら、やっぱちょっと大人げなかつたか。」「いやいや、冗談だよ、気にしないで。じゃあ行くか」「おにいちゃん、弥生じや勤たないってこと……？」
「いや……そういう意味じゃ……だつて、僕たち従兄妹だし、おまえまだ小学生だし……」「従妹の小学生だから、おにいちゃんは弥生をオンナとして見れないつてこと？」
「そう言いながら、弥生の顔は妙に艶っぽい表情に変わっていく。「弥生もう生理あるし、ちゃんとしたオンナだもん……」それに、従兄妹は結婚できるんだよ……」
豊かな胸を両腕で抱きかかるような挑発的なポーズで近づき、上目遣いで僕の顔をのぞきこむ。
「弥生、おにいちゃんの彼女になりたい…………」
弥生は僕の背中に腕をまわして抱きついてきた。柔らかな二つのふくらみが、僕の体に押しつけられ、その心地よい感触が伝わってくる。
「や……弥生……」





「いいよ、感じて。もつと気持ちよくしてあげるね……」
弥生は僕の前にしゃがみこむと、パンパンに張ったジーンズの前を開き、下着をずらして、中に押し込められていたこわばりを解放した。



取り出したモノを興味深げに眺めながら、遠慮がちに指を這わせはじめる。「あつ…………！」その触れるか触れないかの微妙な刺激に、僕のペニスはますます大きく硬くなっていく。
「熱ウイ……」「あ……あッ……」弥生イ……」



ペニスをヒクヒクさせながら声をもらす僕の様子に気を良くしたのか、弥生は微笑みながら僕の先端にくちびるを触れさせた。
「ううッ……！」突然の熱く柔らかな刺激に思わずのけぞってしまう。
「おにいちゃん……気持ちイイ？」
「うん……すごく……気持ちいいよお……」





「うふふつ、もつとなめてあげる♡」満足そうな微笑みをもらして、舌先をチロチロと亀頭に這わせ始める。



ちゅぱり
突然、弥生が僕のペニスを頬張つた。くちびるをすぼめ、じゅぶじゅぶと肉柱を絞り、力りに引つかけて捲り上げる。その間、口の中では、舌先を尿道にひねりを入れながら抜き差ししていた。

ちゅほッ、ちゅほッ、ちゅほッ、ちゅほッ、
ちゅほッ、ちゅほッ、ちゅほッ、ちゅほッ、
ちゅほッ、ちゅほッ、ちゅほッ、ちゅほッ、
ちゅほッ、ちゅほッ、ちゅほッ、ちゅほッ、



頭を前後に振つて、ペニスの根本から力りのくびれ目までくちびるをスライドさせると、かわいらしいスマックに包まれた弥生の柔らかそうな巨乳がユサユサと揺れ、いつそう僕の興奮を高めていく。



信じられない快感だつた。想像していたより遙かにすごい。ペニスは痛いほど充血し、先端の切れ目から大量の分泌液が溢れ出す。



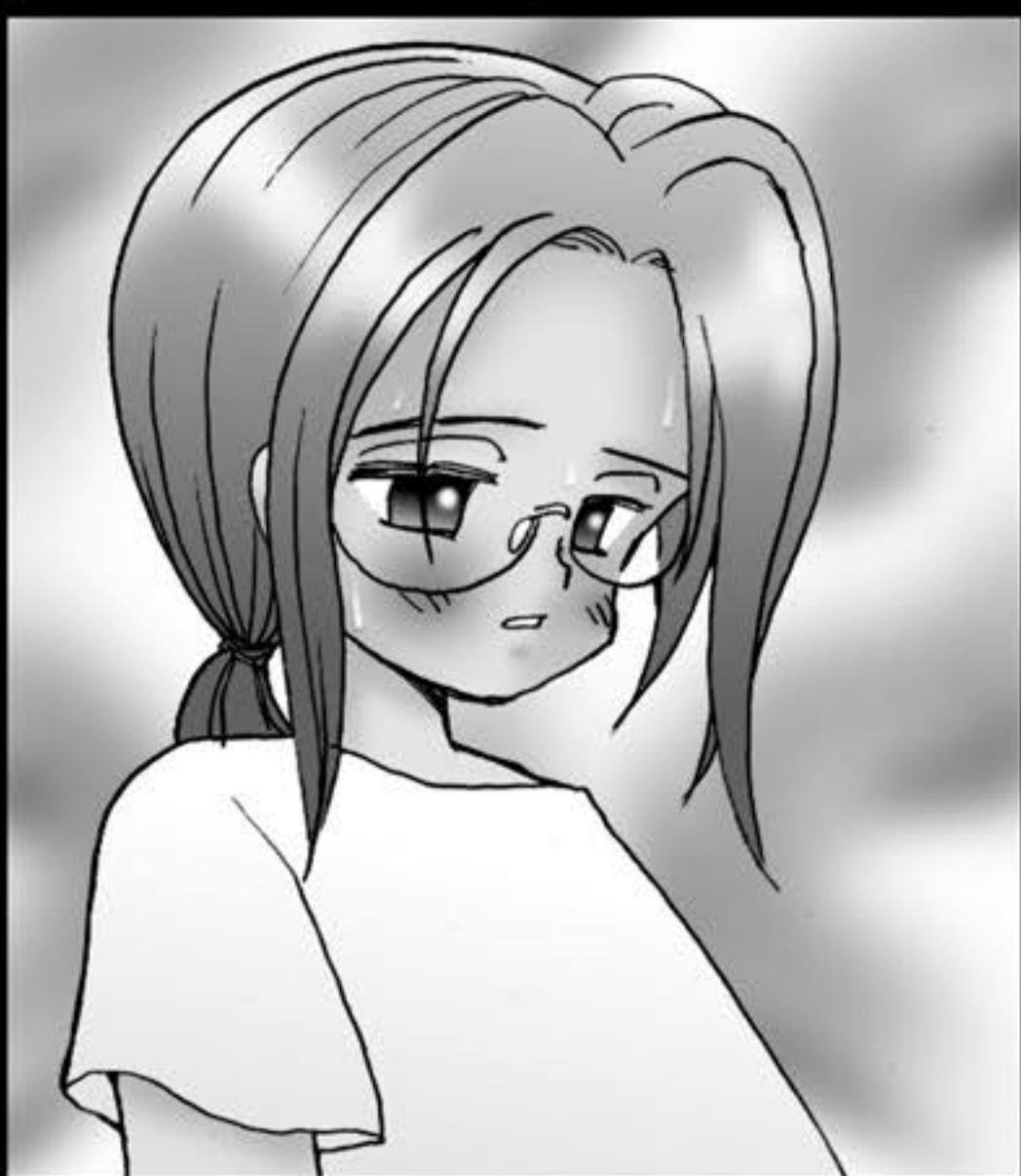
「すごい
あッ…ああ…」
巧い。巧すぎる。女は
生まれながらの娼婦だと
よく言うが、それにしても、小学生でもこれほど
の舌使いがいきなりできるものなのだろうか。
「弥生…こういうこと、
よくしてるの…？」
先ほどから、まさかと
思っていた疑問だが、聞
かずにはいられなかつた。
「ちゅばッ…じゅる…」

「この前、トモちゃんちに遊びに行つた時、彼氏の倉橋君も来てて…フェラするところ
見せてくれたから、弥生も少し練習させてもらつたの…」

答えた。
「友達の彼氏のを、しゃぶつたのかあ…」

僕はその少年に嫉妬を覚える
とともに、二人の少女にペニス
を舐められるのを想像してます
ます興奮してしまつた。
「でも、それだけだよ。一回だけ
だし、弥生まだ処女だからね
ないのか。僕と同じだ。」

それを聞いて少し安心した。
そつか、セックスはまだした事
ないのか。僕と同じだ。



「続き：してあげる」
弥生は僕をベッドに押し倒すと、はちきれる寸前まで勃起したペニスに
むしゃぶりついた。



ちゅぱり
ちゅぱりちゅぱりちゅぱり
ちゅぱりちゅぱりちゅぱり
ちゅぱりちゅぱりちゅぱり
ちゅぱりちゅぱりちゅぱり
ちゅぱり
ちゅぱり
ちゅぱり
みゅるるツみゅるるる
にゅむり、
くちゅりくちゅりくちゅり、
ちゅるるるるううう



「う……弥生イ・すごいよ……」



「う……弥生イ・すごいよ……」

先端の切れ目からとめどなく溢れ出す
分泌液をチュルチュルと吸い上げられ、
いよいよ限界がせまってきた。

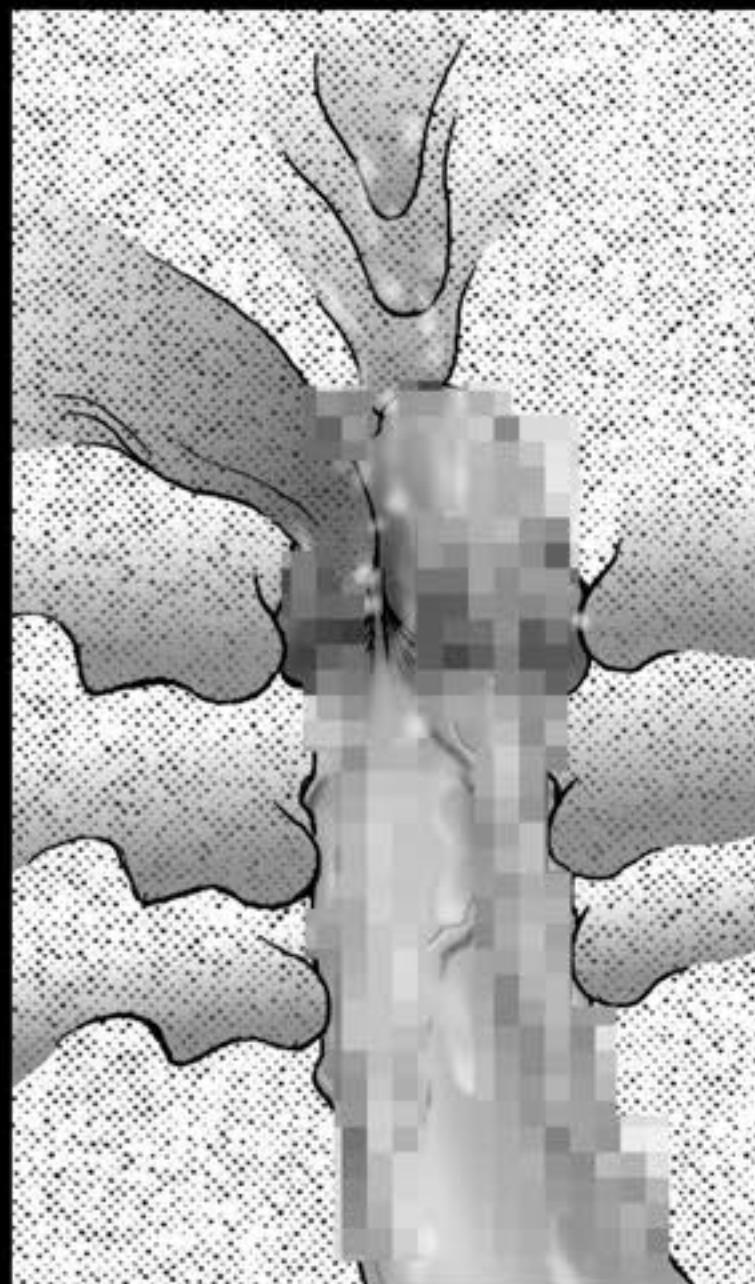
「弥生……兄ちゃんイッちやいそ……
もお、精液出ちゃうよオ……」

すると弥生は目だけで僕に合図してきた。

いいよ、おこいちゃん。弥生のおくちの
中に射精して……



弥生の小さな柔らかいくちびるが僕のペニスを
はげしく擦り上げ、舌先を尿道に抜き差しづなが
ら、精液を吸い出そうと喉を震わせている。



「でツ……出ちゃ……う！」

ああツ……出る……出るうう——ツツツ！」

精管から尿道を凄まじい勢いで駆け上がり、舌先で割り拡げられた
尿道口から、弥生の喉の奥めがけて一気にほとばしり出した。



とんでもない量の精液が、弥生の小さな口の中を暴れまわり、くちびるの端から溢れ出す。それでも弥生は懸命に飲み込もうと、僕のペニスにくちびると舌を絡めたまま喉を鳴らしている。

んツ
んン
んく
んく
んく
んく

「ああ……すごい……射精が止まらないよ……」

僕のペニスはいつまでもピクンピクンと震えながら、弥生の口の中に何度も何度も精液を射ち出していた。こんなに大量の射精をしたのは初めてのことだ。ものすごい快感だつた。

ごくん：ごくん：ちゅる……ちゅるるるううう……ごっくん：

ようやく肉柱の脈動がおさまり、精液の放出が止まると、弥生は尿道の中に残った最後の精液を吸い出し、すべて飲み込んだ。



「はあ……はあ……おにいちやんの精液おいしかつたあ……♡ おにいちやん、弥生の
フェラチオ気持ちよかつた？」

弥生は僕の横に腰掛け、まだ硬さを失わない肉柱を軽くしごきながら、潤んだ瞳で僕を見上げた。

「ねえ、おにいちゃん。…セックスしたら…もつと気持ちイイかな…？」

セックス…

弥生の口からもれたストレートな単語を聞いて、

僕の下半身はふたたび緊張はじめた。

何度も言うのは情けないが、僕は童貞だ。女との快感を生むものか、まったくわからない。

弥生と…巨乳少女とセックス…



子の膣の中がどんな風になつてているのか、そこにベニスを突き入れて抜き差ししたら一体どれほど

さつき弥生の口の中に出し尽くしたはずの精液が、ふたたび僕の体の奥から湧き上がつてくるのを感じた。弥生の手に握られたペニスが熱をおびてヒクヒクと震え始めた。

僕が黙っていると、不意に弥生はベッドから降り、服を脱ぎ始めた。歳に似合わず豊かに育ちすぎた乳房がぶるんとこぼれ落ちる。



「お、おい、弥生…」
「おにいちゃん…。しょ、セックス…」

弥生が下着を下ろすと、まだ毛の生えていない幼い割れ目が現れた。よく見ると、割れ目と内もも一帯が濡れている。

「ねえ、おにいちゃん。
弥生のおっぱい揉んでいいよ
たわわな巨乳を自分で持ち上げるようしながら、僕に近づけてきた。
こうしてアップで見ると、本当に大きい。とても小学生の持ち物とは思えない。その艶めかしい半球体に幻想され、思わず両手を伸ばして柔らかな肉毬に指をうずめた。



「あん…」

指に力を込めるとき、弥生は眉をひそめて呻いた。
柔らかい…。女の子の胸つて、こんなに柔らかいものだつたのか…。
今までにも何度も偶然を装つて弥生の胸に触れたことはあつたが、もちろん服の上からだつたし、感触を楽しむほど揉んだことはなかつた。

むにゅつ、むにゅつ、むにゅつ、むにゅつ

「あつ……あつ……あ……あ……」

弥生は背中を反らせ、僕の方に乳房を突き出すように身をよじった。
気持ちいいのかな……



小さめの乳首はピンとそそり立ち、見るからに敏感そうだ。僕は思わず、親指とひとさし指でキュッとつまんでみた。

「あうッツ！」

弥生はビクンと体を震わせ、肩をすくめて天を仰いだ。
やつぱり感じてる……。続けて、両方の乳首をつまんだり、ひつぱつたり、指ではじいたりしてみた。弥生は「あッあッ」と声をもらしながら、くねくねと身をよじらせていく。



「おにいちゃん……おっぱい気持ちいいよお……」
「おっぱい吸つてもいい？さつき弥生が兄ちゃんのおちんちん吸つてくれたみたいに……」

「うん……いいよ、おにいちゃん、弥生のおっぱい吸つて……」
僕は弥生の乳房を両手で持ち上げ、乳首に吸い付いた。
ちゅば……ちゅッ……ちゅッ……れろれろ……力リッ……ちゅるるるうう……
コリコリに勃起した乳首を口にふくみ、吸い取つたり甘噛みしたり先っぽを舌でくすぐつたりすると、弥生はいちいち反応して、体をくねらせて声を上げた。
僕は夢中で弥生の乳首を吸いながら、乳房を揉みほぐした。



「こう？おにいちゃん！」
巨乳小学生の柔らかな肉房がペニスに絡み付き、とろけそうな快感が押し寄せる。

「うつ……すごい……気持ちいい……！」

や、弥生イイ！

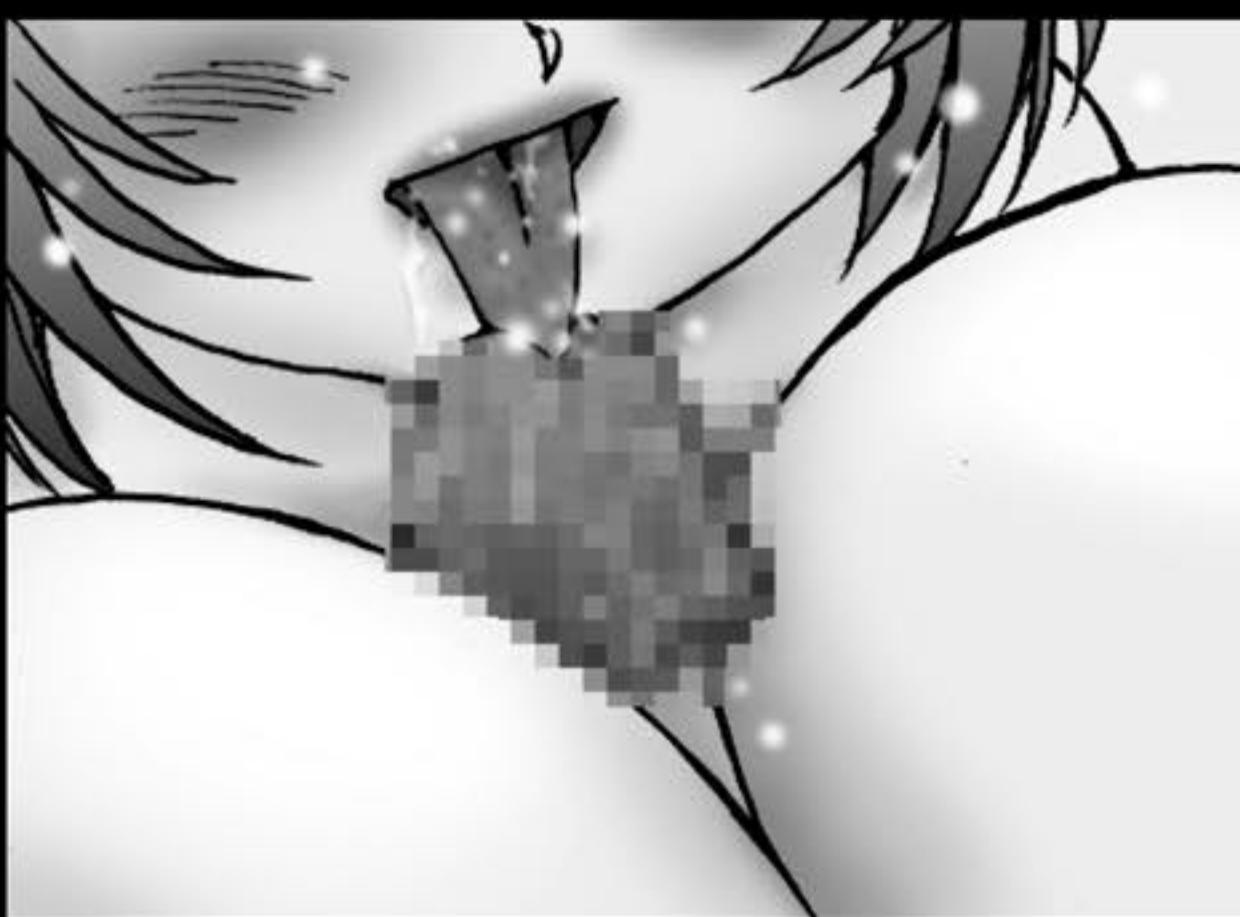
弥生の乳房の間に肉柱を擦りつけるように、夢中で腰を動かした。ペニスの先から透明な粘液が溢れ出し、ヌルヌルと滑りはじめると、さつきのフェラチオの時のような、カリや裏すじをねぶられるような感覚が走り抜ける。

むにゅつ、ニユルツニユルツニユルツニユルツ、
ふにゅふにゅり、にゅぱりにゅぱりにゅぱり

追い打ちをかけるように、谷間の上端からびよこびよこと顔を出す亀頭に弥生が舌を這わせ始めた。少女の乳房にペニスを挿まれ、尿道口を舌で刺激される快感に、二度目の射精の時が近づく……。

本当に大きくて柔らかい。この巨乳にペニスを挿んでしごいたらすごく気持ちいいだろうな……。
想像すると同時に僕はベッドから降り、弥生の正面に立つと、彼女の胸にペニスを押しつけていた。
「弥生……いい？」
弥生は一瞬「えつ？」という顔で見上げたが、すぐに、自分の乳房を両手で押し上げて僕のペニスを挿み込んだ。

むにゅううう……





「ダメツ……弥生、ま、また出るツツツ！」

どぶゅううううううう
——ツツツツ!!!

僕は弥生の胸と顔に、2発目とは思えないほど濃い精液をたっぷり放った。



「あ…あ…あ…あ…あ…」
「おにいちゃん…大丈夫?」
ほとんど間をおかず2度の射精をはたした僕はさすがに息が上がってしまった。だが硬く張りつめたモノは、まったく萎える気配もなくいきり勃つたまま。「まだできる…?」頬を真っ赤に上気させた弥生は、顔の汚濁を拭いもせずに、粘液まみれのペニスを握ってきた。



「今度は、弥生のおまんの中に発射して欲しい…」
彼女は僕の正面に座つたまま、両脚を大きく広げた。
フェラチオとバイズリですつかり興奮してしまつたのだろう、弥生の内ももは粘り気のある分泌液で
グツショリ濡れて光っている。

「おにいちゃん：見て…」
弥生はその中心部分を指で開いて、僕に示した。初めて目にする女性器は、ピンク色の肉襞が複雑に入り組んだ淫猥きわまりない造形を醸していた。よく観察すると、弥生の呼吸とともに肉襞がヒクヒクと開閉を繰り返し、下端の深い窪みからは白く濁った粘液がドクドク溢れ出している。
愛液つて、透明じやなかつたんだ…。
この一番グチャグチャしてるところが膣の入り口かな…





そのピンク色の臓器に見とれてボーッとしている。弥生は肉裂の天辺に指を這わせた。半分ほど皮に包まれた小さな肉芽がピヨコンと顔を出す。クリトリスだ。弥生は、二本の指で挟むようにして肉芽を擦り始めた。

弥生は、クリトリスを擦り上げながら、もう一方の手で膣口を撫で始めた。みるみる指が淫蜜で濡れてゆき、いやらしく糸を引く。

「あ…………ン…………ン…………」はふ…………う…………彼女は切なそうな溜め息を漏らしながら身をよじつている。女のオナニーは、こんな風にするのか……。

弥生の腰がクネクネと揺れ、肉裂が迫り出すように拡がり始める。すると収縮していく肉襞がパックリと口を開け、膣口らしき部分が晒け出された。喘ぎ声を漏らして腰を動かすたびにその淫らな穴が開かれ、淫蜜に濡れた膣内部の壁までがよく見えた。

この中に……ペニスを挿れるのか……。

このいやらしい肉襞に包まれ、絞めつけられるのを想像すると、それだけでまた漏らしてしまいそうだ。

「んン……ツ！」そのまま濡れた指先を一本、肉壺に突き立てた。ゆつくりと奥まで押し進めてゆく。

ぐちゅウウ……
ちゅほ：
グチユツ：グチスツ：
いやらしい音が部屋
中に響いた。





「見て、おにいちゃん……。弥生、こんなに指が挿っちゃうんだよオ……。ねつ、これなら多分、おにいちゃんのおちんちん、挿れても大丈夫だよね……♡」

弥生が、精液まみれの顔を上気させて嬉しそうに言うと、突然、リアルなイメージが広がった。いま指が三本挿っている弥生の膣に、僕のペニスを……

「挿れてもいいの……？」

「うん、挿れて欲しいの。弥生、おにいちゃんとセックスしたいの……」

セックスできる……弥生と……小学生の従妹と……
巨乳少女とセックスできるんだ……

僕の頭の中はそのことでいっぱいになり、限界を超えて勃起したペニスからは樹液が溢れダラダラと垂れていた。

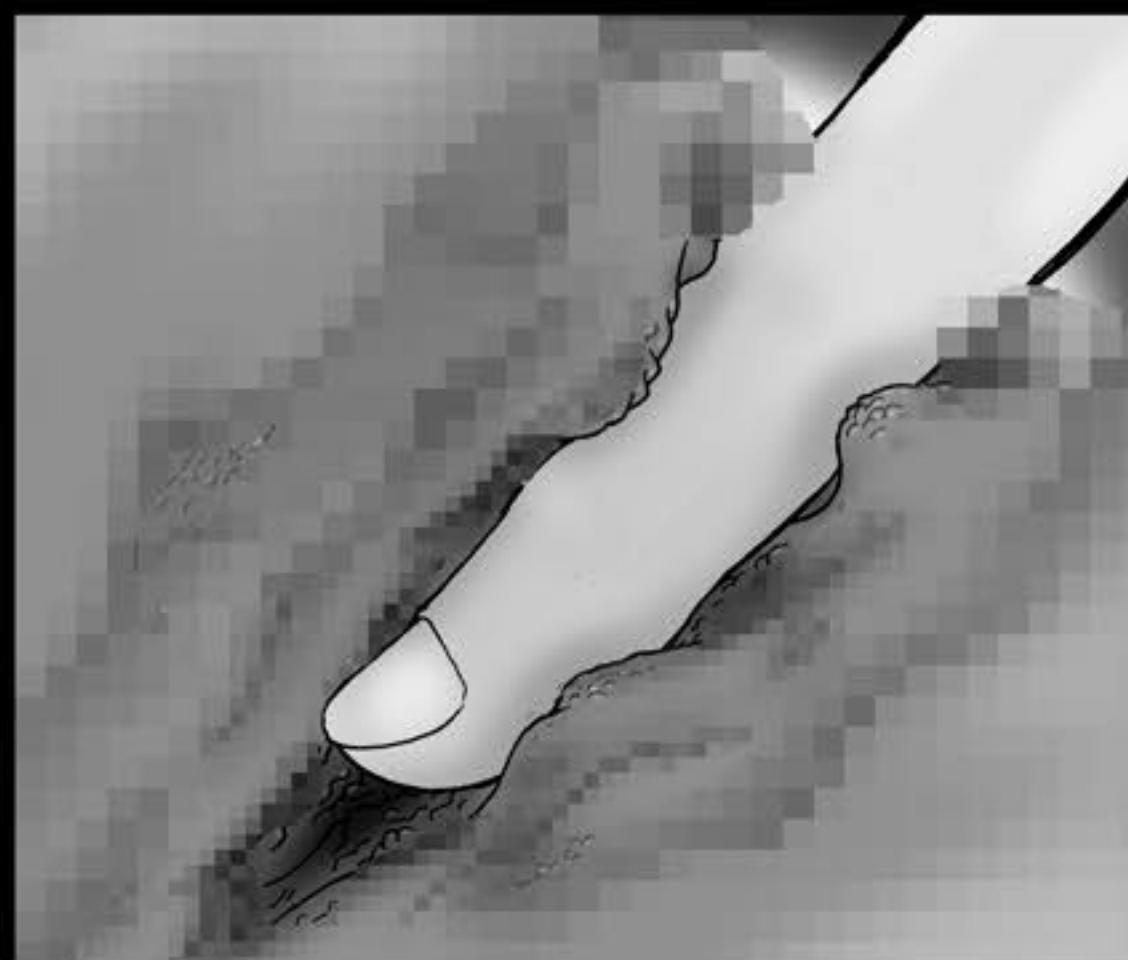


弥生はベッドに横たわった。張りのある巨乳がやや変形して、お皿に落としたプリンのように揺れる。「来て……」腕で両膝を引きつけ、脚をMの字に開いて、ぐつしより濡れ開ききつた秘部を僕に探し出した。かわいいお尻の穴まで丸見えの恥ずかしい格好だ。



手を伸ばし、遠慮がちに秘肉に触れてみる。少女の体がピクリと張りつめ、「あッ！」と声を漏らした。
ヒクヒクと開閉しながら淫蜜を分泌し続けている肉穴に、指を差し入れてみた。三本の指が挿つただけあつて、あつさり飲み込まれた。内部はものすごい熱さで、まるで何枚もの舌で構成されているかのような緩い弾力のある感触だつた。膣壁の手触りも、舌の表面のような柔らかいざらつきがある。

「あン！」と声を上げ、膣壁が緊張して僕の指をきゅっと締め付けるのがわかった。





「嫌……おにいちゃん、おちんちん挿れてエ……」弥生は真っ赤な顔で切なそうに言つた。

「うん……挿れるよ、弥生」

弥生の中から指を引き抜くと、ほとんどお腹につくほど隆起したペニスを握り、先端を少女の入り口に押しつけてた。ねつちよりとした柔肉の感触が亀頭に絡み付き、思わずそこまで漏らしそうになるが、ぐつとこらえる。

指で確かめた膣内部の感触を思い浮かべながらゆつくり腰を進めると、待ちかまえていたように、膣壁がペニスにまとわりついて来る。

「ああ……弥生……挿っていくよお……すごい……弥生の中、気持ちいいッ……！」



そのまま、ねちよねちよと蠢く肉の波に引き込まれ、一番深いところまでたどりついた。四方八方から少女の柔肉が押し寄せ、ペニスを締め付ける。すごい。なんて気持ちよさだろう……。熱くて、柔らかくて……。これが、女の子の中……。これが……セックス……。





おにいちゃん 大つきイ
んツくうウ

やはり痛みがあるのだろうか、弥生は苦しそうに顔を歪めている。だが、僕はこの快感に抗うことなどできなかつた。かまわず腰を振り始めた。

敏感なくびれ目がざらつく柔肉に擦られる。腰を押し出すと、きつく狹まつた肉洞に先端の割れ目を開かれ、尿道口を刺激される。

グチユツグチユツグチユグチユツグチユツグチユツ
グチユちゅほグチユグチユツグチユツぬちゅぬちゅツ
グチユツじゅほツじゅほツじゅほツ……

「ああッ、ああッ、痛、イツ、あつ、あつ、あツ、
ンんツ、く、うウ、あツあツああーんツツ！」

苦痛に亘んていいた弥生の顔が、たんたんと快感の渦にとろけてゆくのがわかつた。彼女の内部も、膣肉がキュッキュッと硬く収縮したり、柔らかく弛緩したりと、激しくうねり始めている。

すこいよ 弥生 気持ちいいツ あーあーんツんツんツんツ！」

僕はものすごい勢いで、ペニスを突き刺し、引き抜き、少女の一番奥と入り口の間を往復させる。弥生も自分から腰を揺らし始め、二人の結合部分が異常なリズムを奏でてお互いの性器を擦りあつた。



目の前では、巨乳小学生の肉房が激しいピストン運動に突き上げられ、たゆんたゆんと波打つエロチックな光景が繰り広げられている。

弥生の口と胸への二度の発射で枯れ果てたはずの精液が、下半身に満ちてゆくような感覚が湧き上がった。ほとんどペニスの先端まで充填されてしまっているかのようだつた。それどころか、すでに何滴かの精液は尿道から溢れ出し、少女の膣内に流れ込んでいるだろう。

「おにいちゃん、すごい、気持ちイイッ！ 弥生おまんこ

ところけちやうウ！」

顔を精液まみれにした巨乳小学生が、よだれまで垂らして快感に酔いしれている。育ちすぎの胸以外は子供だとしか思っていないかつた従妹が、こんなにスケベな女だつたなんて……。



ぐちゅううううツツ！

一瞬、弥生の内部が激しくうねり、ペニスを強く締め付けた。すると僕の下半身にひきつるような緊張が走り、出口ぎりぎりで精液を押しとどめていた何かがはじけた。

「で、出ちやうツツ！」

思わず、上半身を倒し、弥生の体をギュッと抱きしめた。するとペニスが膣深く突き刺さり、もつとも奥のしこりを割り抜けた。

「ひッ！」いきなり子宮口を突かれた少女が悲鳴を上げる。



尿道が開き、中に満ちていたものが飛び出してゆく。

ピュルリツツ！ びゅるツ！ びゅるツ！ びゅり、ピュツ、ピュツ……

「ああああ……す、
すごい……」

気持ちいい……」

少女の膣内に射精するのが
こんなに気持ちいいなんて
……。

今日三度目だが、これが
最高の射精だ……！」

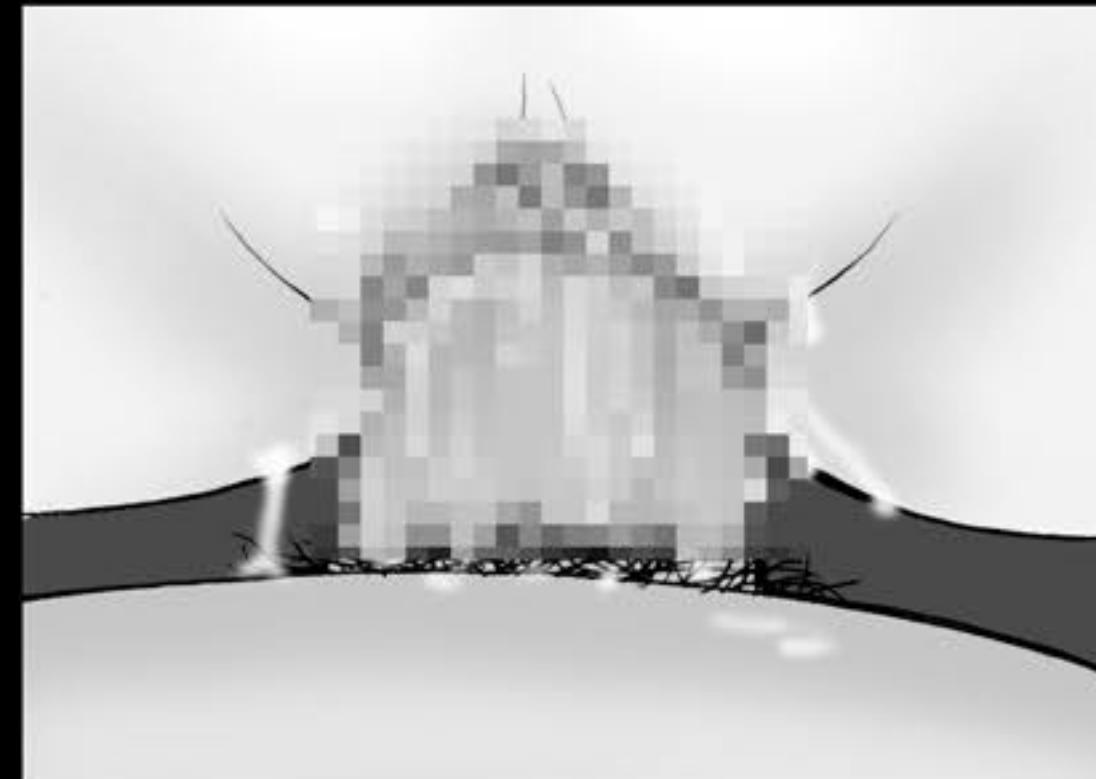


「ああツ、おにいちゃん！ おにいちゃん！」

弥生が僕にしがみつき、下から腰を振り立てる。
膣襞が僕のペニスを擦り上げ、精液を搾り出して
ゆく。

ドクツ……ドクツ……ドクツ……





「ああ……弥生……はあ……はあ……はあ……」
女の子とセックスした。巨乳の従妹の膣にペニスを突っ込み、中に射精してしまった……。
ぐつたりと脱力し、童貞喪失の感動にひたつていると、弥生が僕の下から這い出して來た。結合が外れ、僕の先端と
弥生の肉穴の両方から、白濁液が溢れて飛び散った。
「おにいちゃん……弥生まだイッてないの？」
不満気に言うと、弥生は僕を仰向けに倒した。そして、まだ勃起したまま少しずつ精液を噴き出し続いているペニス
の上にまたがり、腰を落とす。僕のペニスはふたたび少女の膣内に飲み込まれた。
「あ……や、弥生……」イツたばかりで敏感になつている僕のペニスは、弥生の中でヒクヒクと痙攣しながら、硬さを
とりもどしてゆく。

ずふ……じゅぶり……じゅぶり……

弥生は僕の上でゆっくりと腰を上下に振り動かした。

「あッ……あッ……あッ……あッ……おにいちゃん……おにいちゃん……」

「じゅぶり……じゅぶり……じゅぶり……じゅぶり、じゅぶり、じゅぶり、じゅぶり

じゅぶりじゅぶりじゅぶり

だんだんとピッチが上がつてゆく。僕の上で、巨乳小学生がブルンブルンと乳房を揺らしながら、ペニスを食つて激しく腰を振り立てているのだ。

僕は今、小学生の女の子に犯されている……。

妙に背徳的な屈辱感が、快感に変わつて体の中を走り抜けていった。

「ああッ！　ああッ！　ああッ！　ああッ！　ああッ！　ああッ！……」

弥生はかん高い声を上げながら腰を振っている。



腔内では、弥生の肉襞が熱くとろけ出し、ペニスに絡み付いて来る。処女を喪失したばかりの弥生の若い肉壺は短時間で急激な変化をおこしているようだつた。あきらかに腔壁のざらつきが鋭く際立つてきている。その鎌のような肉壁に力り首や裏スジをヌチヨヌチヨと擦られ、僕は少女のように「ああ、ああン……」と声をあげてしまった。



ヌツサヌツサヌツサヌツサヌツサ

僕の顔の上で、弥生の巨乳が揺れている。僕は思わず上半身を曲げ、激しく弾むその肉房に顔をうずめた。「んッ、んっんつ、くふうッ、はふッ、はふ」両手で柔らかい乳房をこねまわしながら、コリコリと小気味よく勃起した二つの乳首を寄せて口にふくんだ。

「はああああん、おにいちゃん、

おっぱい吸つてええ！」



グチヨウグチヨウグチヨウグチヨウグチヨウグチヨウ…

敏感な胸を刺激され、ますます興奮したらしく、弥生はさらに激しく腰を振り動かした。



ものすごい早さでペニスを上下に擦り上げながら、柔らかくこなれた膣肉が収縮を繰り返しきゅんきゅんと締め付ける。小刻みな快感が体中を駆け抜け、たまらず僕も下から腰を突き上げてしまつた。

「ああーッ！すごい、おにいちゃん、奥まで届いてるウウ！」

また僕の先端が弥生の奥のコリコリした
臓器を突いたのだ。弥生は、そこがかなり
感じるらしい。僕にとつても、子宮口がち
ょうど亀頭の先端にはまる感覺はたまらな
い。僕は何度も何度も激しく腰を突き上げ
た。

「イツ、い、い、イキそオ、
おにいちゃん……。
弥生イツちゃいそオ……」

ケヌツツグチヌツグチヌツグチヌツ
グチヌツグチヌツグチヌツグチヌツ
グチヌツグチヌツグチヌツグチヌツ
グチヌツグチヌツグチヌツグチヌツ





「はあああ……」太い溜め息を吐いて弥生が僕の上に倒れ込んだ。僕は彼女の体をギュッと抱きしめ、ヒクヒクと痙攣していく。弥生の膣内に、最後の一滴まで精液を放出し続けた。



「いくッ、もうだめ、イツ、イク、イツちやう、いくうううウウウウ——ツツツツ!!!」
巨乳の小学生が、僕の上で腰を振りながら、まるでAV女優のような声を上げて絶頂を迎えていた。
たまらない。痙攣しながら収縮する膣肉に締め付けられながら僕は弥生の中に四度目の射精をした。
どがゅううううり、どがゅうううり、びゅるり、びゅるり、びゅり、びゅり……どくッ……どくッ……

何度も射精して極限まで張り出した僕の力が、肉襞をグチャグチャに搔き回し、敏感な部分を擦り上げ、先端が一番奥のしこりを突き開く。弥生は腰をガクガクと上下させ、焦点の合わなくなつた瞳から涙を流し、精液のまじつたよだれを垂らしながら、大きく背中を反らせた。



あとがき

チワス。みむだ良雑です。
まいどおかい上げありがとうございます。

はい、3冊目の巨乳小学生ちゃん本をお届けいたしました。
なんか「ヤルだけ小説」が当初の予定を大幅に逸脱してやたらと長くなってしまい、そのぶん漫画が短くなってしまったとゆ～バランスの悪い本ですがいかがでしたでしょうか。
それなりに楽しんでいただけると幸いなのですが。(汗)

では、次は秋レヴォあたりでお会いいたしましょう♡

Aug.2001 みむだ良雑



それが、みむだ良雄の遺作となった――

巨乳小学生Yちゃん

発行日：2001年8月12日

サークル：寺田尚子

連絡先：

E-mail :

URL :

※無断転載禁止



KYONYUU SHOUGAKUSEI Y-CHAN



巨乳小学生 iちゃん

成年
コミック



















穴
ここ
?....

そん
のへん

ぬ
ぢ
か

あ

そ
こ
のま
ま
で
押し込
んで

ぐ
り

ん
?....



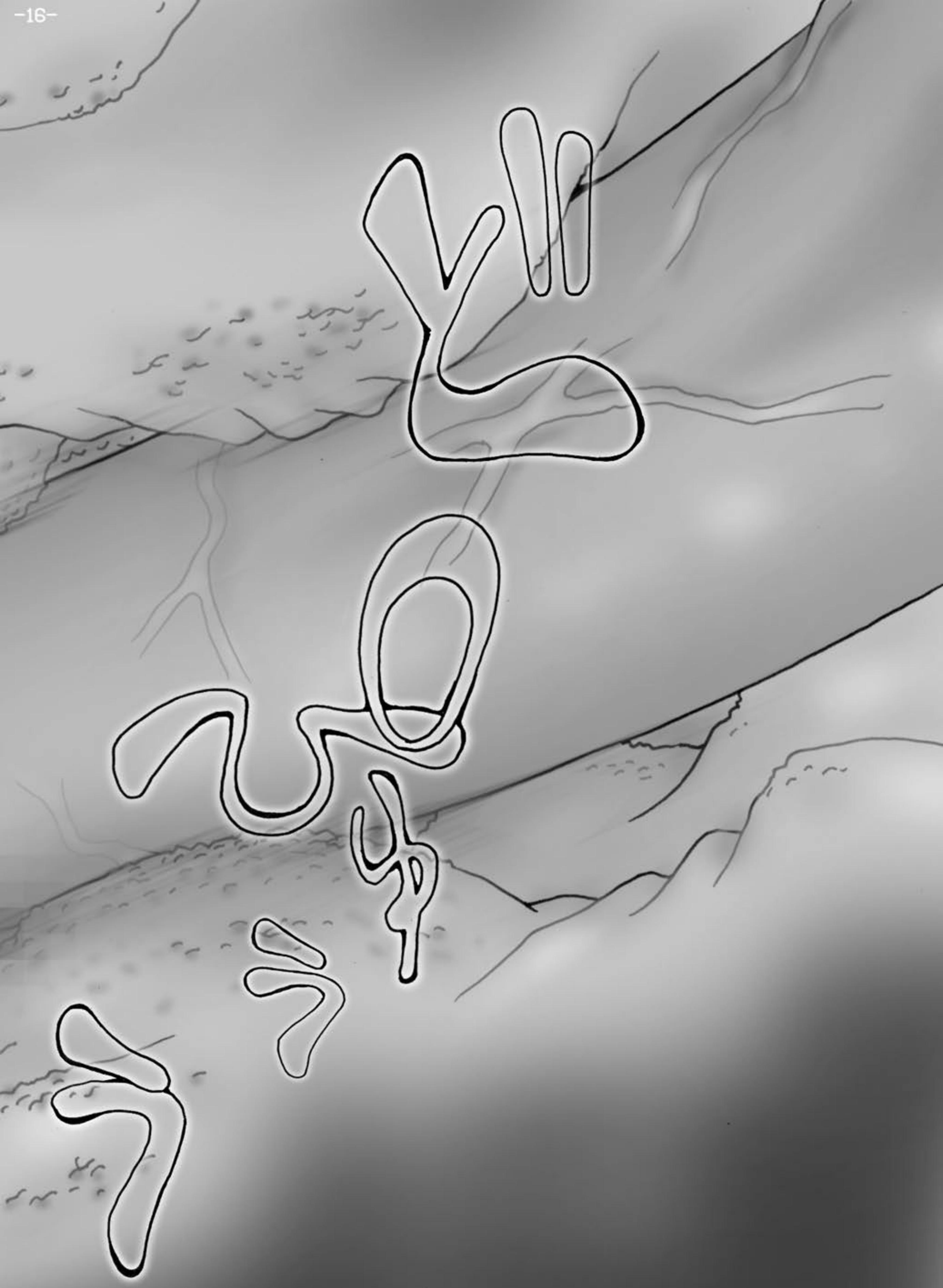
あああッ

あアア
あーッ

アイちゃん…
すごい…
きもちいいイイ！

おにいちゃん：
もつと…
もつと——ツツ!!









あいもと いくこ
相本育子ちゃん
(ハンドルネーム・アイちゃん)
平成2年12月15日生まれ
(11歳・小学6年生)
身長145cm 体重36kg
B93(Iカップ)W53H80

五年生のとき。

一年前は

た
か
や
い



た
か
や
い





お嬢ちゃんが
悪いんだよ

いやあア

歩ユコ毎小学生のくせに
いさんなで日
てユサで日
るサで日
から： 摆
いオツ
らし
パイ

おいしそうな
乳首だな：
ほら自分で
吸つてみな

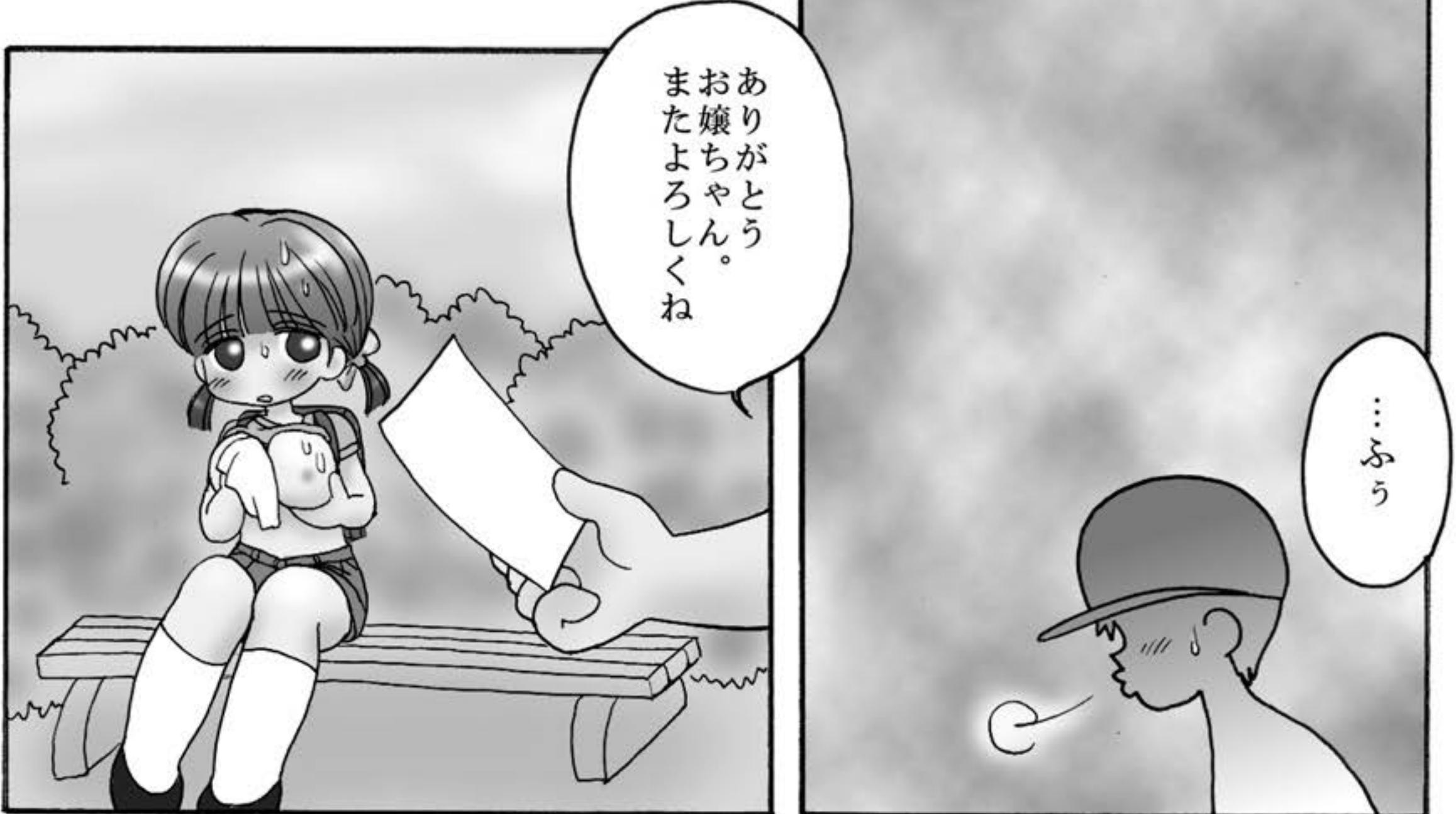
しかも
ノーブラで
浮き出させ
ちやつて…

だ：だつて
合うブラ
ないんだもん…









その日わたしは
初めて
自分の体がお金になる
ということを知った。



覚こそ
えんれ
てな以
し才来
まいま
いまし
た

巨乳小学生の母乳を搾る。

出どたほ
すんつら、
んどぶ
だんり
よミ飲
.ルん
クを

やい下
るつ
かぱお
らい口
な飲に
.ませて

罪のない少女を殺してはいけません。みんな少女殺しすぎです。美しさが罪だとか、可憐さが罪だとか、そういう詭弁もいけません。もちろん、罪のない少年も殺してはいけません。たしかし殺すほどのことではあります。でも殺すほどのことではありません。考えてもみてください。彼女らの甘くとろけるような蜜壺、彼らの恥ずかしげに隆起する肉棒が、二度と使用されることなく永遠に失われるのです。こんなもったいないことがありましたか。殺してはいけません。そして、傷つけてもいけません。少女や少年をむりやり犯すなどもってのほかです。殺さず、傷つけることなく、優しく優しく彼ら彼女らを甘美な肉欲の世界へと導くことがわれわれ口リショタオヤジのなすべきことなのです。愛さなければいけません。しかし、愛しそうともいけません。ょせんやツらはコドモです。まったく、ちょっと乳揉んだぐらいでガタガタ騒ぎやがって。そんな無防備な格好で、乳揺らして歩いてたら、普通揉むだろ。なあ。それに、パンツめくったらもうトロトロなんだぜ。本当は最初からヤッて欲しくてしかたなかつたんだろう？ククク。それなのにいざ突っ込むとしたらこれまたギャーギャー騒ぎやがる。ま、ようするに力ネよこせってことだがな。今時のがキはよお。まったく可愛いもんだよな。こんな可愛いヤツラを殺そうとする野郎の気が知れねえぜ。というわけで殺さないで下さい。

あとがきにかえて。平成14年夏・みむだ良雑拌

それが、みむだ良雑の遺作となった――

巨乳小学生 iちゃん

発行日：2002年8月11日

著者：みむだ良雑

サークル：寺田尚子

※無断転載禁止



TERADANAOKO2002